



Call Home

- 「Call Home の前提条件」 (P.50-2)
- 「Call Home の制約事項」 (P.50-2)
- 「Call Home について」 (P.50-3)
- 「Call Home のデフォルト設定」 (P.50-23)
- 「Call Home の設定方法」 (P.50-23)
- 「Call Home 設定の確認」 (P.50-47)



(注)

- この章で使用しているコマンドの構文および使用方法の詳細については、次の資料を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps11846/prod_command_reference_list.html

- Cisco IOS Release 15.1SY は、イーサネット インターフェイスだけをサポートしています。Cisco IOS Release 15.1SY は、WAN 機能またはコマンドをサポートしていません。
- Cisco IOS Release 15.1SY は、次の Call Home 拡張機能をサポートします。
 - Call Home シングル コマンド設定
 - Anonymous Reporting
 - Crash アラート グループ
 - データ プライバシー
 - 診断シグニチャ
 - HTTP プロキシ サーバのサポート
 - Call Home メッセージの IOS コマンドに対する AAA 認証
 - Snapshot アラート グループ
 - syslog スロットリング
 - Call Home メッセージの圧縮：大きいメッセージの切り捨てを防ぐには、圧縮し、base64 バイナリ エンコーディングを、Smart Call Home サーバに送信される、10KB より大きな XML 形式の CLI 出力に適用します。
 - HTTPS 接続用の CA 証明書の自動更新



ヒント Cisco Catalyst 6500 シリーズ スイッチの詳細（設定例およびトラブルシューティング情報を含む）については、次のページに示されるドキュメントを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/switches/ps708/tsd_products_support_series_home.html

[技術マニュアルのアイデア フォーラムに参加する](#)

Call Home の前提条件

- 受信者が受信メッセージの発信元を判別できるように設定される Call Home 連絡先に関する次の情報を取得します。
 - 顧客連絡先の電子メール（Smart Call Home へのフル登録の場合は必須、Call Home が匿名モードでイネーブルの場合は任意）
 - 顧客の電話番号（任意）
 - 顧客の住所（任意）
- 電子メール メッセージ配信を使用している場合は、プライマリ簡易メール転送プロトコル（SMTP）サーバとバックアップサーバの名前または、IPv4 または IPv6 アドレスを特定します。
- （Release 15.1SY 以降のリリースでは不要）セキュア HTTP（HTTPS）メッセージ配信を使用する場合、トラストポイント認証局（CA）を設定します。Call Home の CiscoTAC-1 プロファイルで Cisco Smart Call Home サービス用に HTTPS サーバを使用している場合、この手順は必須です。
- ルータから電子メールサーバ（1 つまたは複数）または宛先 HTTP サーバへの IP 接続を確認します。
- サーバを名前指定する場合は、スイッチが **ドメインネームサーバに IP 接続できる**必要があります。
- Cisco Smart Call Home を使用する場合は、設定するデバイスが有効なサービス契約の対象となっていることを確認します。



ヒント

Smart Call Home Web アプリケーションから、基本的な設定スクリプトをダウンロードして、Smart Call Home およびシスコ TAC とともに使用するよう Call Home 機能を設定するために利用できます。設定スクリプトは、そのままの形で次の URL からダウンロードできます。

https://supportforums.cisco.com/community/netpro/solutions/smart_services/smartcallhome

Call Home の制約事項

- Cisco TAC プロファイルの場合、電子メール メッセージまたは HTTP メッセージを送信するように Call Home を設定できます。ただし、両方を送信するように設定することはできません。
- Call Home アラートは、その Call Home アラートが含まれているアラートグループに登録されている宛先プロファイルにしか送信されません。さらに、アラートグループをイネーブルにする必要があります。
- Call Home データ プライバシーをイネーブルにすると、大量のデータのスクラビング処理を行ったときに CPU 使用率に影響を及ぼすことがあります。

- Call Home データ プライバシーでは、**show running-config all** および **show startup-config** データ内の設定メッセージに対して **show** コマンド出力のスクラビング処理が行われます。
- VSS モードでは、設定メッセージのホスト名のスクラビング処理を行うと、Cisco TAC バックエンド サーバで Smart Call Home の処理に失敗することがあります。
- Call Home の診断シグニチャ機能の使用は、今後サポートされる予定です。CLI にはすでに、**call-home diagnostic signature** コマンドがあります。

```
Router(cfg-call-home)# diagnostic-signature
Router(cfg-call-home-diag-sign)# active
Router(cfg-call-home-diag-sign)# profile profile_name
Router# show call-home diagnostic-signature
Router# call-home diagnostic-signature download
Router# call-home diagnostic-signature install
Router# clear call-home diagnostic-signature statistics
Router# debug call-home diagnostic-signature
```

Call Home について

- 「Call Home の概要」 (P.50-3)
- 「Anonymous Reporting」 (P.50-4)
- 「Smart Call Home」 (P.50-5)
- 「アラート グループの起動イベントとコマンド」 (P.50-5)
- 「メッセージの内容」 (P.50-15)
- 「ログ テキスト形式の Syslog アラート通知の例」 (P.50-19)
- 「XML 形式の Syslog アラート通知の例」 (P.50-19)

Call Home の概要

Call Home には、クリティカルなシステム イベントに対して次の通知オプションがあります。

- 電子メール（たとえば Network Operations Center へ）または Web ベース。
- 自動解析用のサポート Web サイトへの XML の配信。
- Cisco Smart Call Home は、シスコ Technical Assistance Center (TAC) の直接ケース生成をサポートします。

Call Home アラート メッセージには、設定、診断、環境条件、インベントリ、syslog、スナップショット、クラッシュ イベントの情報が含まれます。

Call Home 機能では、*Call Home* 宛先プロファイルに従って複数の受信者にアラートを送信できます。宛先プロファイルには、メッセージ形式とコンテンツのカテゴリを設定できます。定義済みの宛先プロファイル (CiscoTAC-1) が提供されており、独自の宛先プロファイルを定義することもできます。CiscoTAC-1 プロファイルを使用して、Cisco TAC へのサービス要求の作成に使用できる Smart Call Home サービスのバック エンド サーバに (デバイスに提供される Smart Call Home サービス サポート およびアラートの重大度に応じて) アラートを送信します。

柔軟なメッセージ送信オプションと形式オプションにより、特定のサポート要件に簡単に統合できます。複数の宛先プロファイルが設定されている場合、システムは、設定した各プロファイルから Call Home メッセージを送信しようとします。

Call Home 機能では、次の機能が提供されます。

- 複数のメッセージ形式オプション
 - ショート テキスト：ポケットベルまたは印刷形式のレポートに最適。
 - ロング テキスト：人間が読むのに適した形式に完全整形されたメッセージ情報。
 - XML：Extensible Markup Language (XML) および Adaptive Markup Language (AML) Document Type Definitions (DTD; 文書タイプ定義) を使用するマシンが判読可能な形式です。XML 形式により、Cisco Smart Call Home サーバとの通信が可能。
- 複数のメッセージ宛先への同時配信が可能。
- 設定、クラッシュ、診断、環境条件、インベントリ、スナップショットおよび syslog イベントを含む複数のメッセージ カテゴリ。
- 重大度とパターン マッチングによるメッセージのフィルタリング。
- 定期的なメッセージ送信のスケジューリング。
- 連続的なデバイスのヘルス モニタリングとリアルタイム診断アラート。
- デバイスから送られた Call Home メッセージの分析。サポートされている場合は、自動サービス要求が作成され、詳細な診断情報を含め、適切な TAC チームにルーティングされて、問題解決の高速化が実現されます。
- お使いのデバイスから直接、またはダウンロード可能な転送ゲートウェイ (TG) 集約ポイントを介して転送されたメッセージのセキュリティ保護。複数のデバイスをサポートする必要がある場合や、セキュリティ要件によってデバイスがインターネットに直接接続されないことが必要とされる場合は、TG 集約ポイントを使用できます。
- すべての Call Home デバイスの Call Home メッセージと推奨事項、コンポーネント情報、および設定情報への Web アクセス。これにより、関連するフィールド通知、セキュリティ勧告、およびサポート終了日情報にアクセスできます。

Anonymous Reporting

Smart Call Home は、多くのシスコ サービス契約に含まれるサービス機能で、顧客が問題をより迅速に解決できるように支援することを目的としています。また、クラッシュ メッセージから取得した情報は、シスコが現場の機器や発生している問題を理解しやすくします。Smart Call Home を使用しない場合でも、Anonymous Reporting をイネーブルにすると、シスコはデバイスから最小限のエラーおよびヘルス情報をセキュアに受信できます。Anonymous Reporting をイネーブルにした場合、顧客が誰であるかは匿名のまま、識別情報は送信されません。



(注)

Anonymous Reporting をイネーブルにすると、シスコまたはシスコに代わって業務を行うベンダーに指定データを転送することに同意することになります (米国以外の国を含む)。シスコでは、すべてのお客様のプライバシーを保護しています。シスコの個人情報の取り扱いについては、<http://www.cisco.com/web/siteassets/legal/privacy.html> でシスコのプライバシー ステートメントを参照してください。

Call Home が匿名で設定されていると、クラッシュ、インベントリ、およびテスト メッセージだけがシスコに送信されます。顧客の識別情報は送信されません。

これらのメッセージの送信内容の詳細については、「アラート グループの起動イベントとコマンド」(P.50-5) を参照してください。

Smart Call Home

シスコと直接サービス契約を結んでいる場合は、Cisco Smart Call Home サービス用の Call Home デバイスを登録できます。

Smart Call Home には次の機能があります。

- 継続的なデバイスヘルスモニタリングとリアルタイムの診断アラート
- Smart Call Home メッセージの分析。必要に応じて、自動サービス要求（詳細な診断情報が含まれる）が作成され、該当する TAC チームにルーティングされるため、問題解決を高速化できます。
- セキュアなメッセージ転送が、ご使用のデバイスから直接、または HTTP プロキシサーバやダウンロード可能な転送ゲートウェイ（TG）を経由して行われます。TG 集約ポイントは、複数のデバイスをサポートする場合またはセキュリティ要件によって、デバイスをインターネットに直接接続できない場合に使用できます。
- すべての Smart Call Home デバイスの Smart Call Home メッセージと推奨事項、インベントリ情報、および設定情報に Web アクセスすることにより、関連するフィールド通知、セキュリティ勧告、およびサポート終了日情報にアクセスできます。

既知と特定できる問題、特に GOLD 診断エラーについては、デバイスに提供される Smart Call Home サービス サポートおよびアラートの重大度に応じて、シスコ TAC によって自動サービス要求が生成されます。

次の項目を登録する必要があります。

- ご使用のスイッチの SMARTnet 契約番号。
- 電子メール アドレス
- Cisco.com ID

Smart Call Home の詳細については、次の URL の Smart Call Home ページを参照してください。

https://supportforums.cisco.com/community/netpro/solutions/smart_services/smartcallhome

アラート グループの起動イベントとコマンド

Call Home 起動イベントはアラート グループにグループ化され、各アラート グループにはイベントの発生時に実行するよう CLI コマンドが割り当てられます。CLI コマンド出力は転送されるメッセージに含まれます。次の表に、各アラート グループに含まれる起動イベントを示します。これには、各イベントの重大度と実行されるアラート グループの CLI コマンドも含まれます。

- 「Call Home の Syslog アラート グループのイベントとアクション」、表 50-1 (P.50-6)
- 「Call Home の Crash アラート グループのイベントとアクション」、表 50-2 (P.50-6)
- 「Call Home の Configuration アラート グループのイベントとアクション」、表 50-3 (P.50-7)
- 「Call Home の Snapshot アラート グループのイベントとアクション」、表 50-4 (P.50-7)
- 「Call Home の Environmental アラート グループのイベントとアクション」、表 50-5 (P.50-8)
- 「Call Home の Inventory アラート グループのイベントとアクション」、表 50-6 (P.50-11)
- 「Call Home の Diagnostic Failure アラート グループのイベントとアクション」、表 50-7 (P.50-13)
- 「Call Home の Test アラート グループのイベントとアクション」、表 50-8 (P.50-14)

表 50-1 Call Home の Syslog アラート グループのイベントとアクション

アラート グループの説明 :	syslog にログ記録されるイベント		
TAC への送信 :	No		
実行されるコマンド :	show logging、show inventory、show switch virtual (VSS モードのみ)		
Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明
SYSLOG	LOG_EMERG	0	システムは使用不能
	LOG_ALERT	1	即時対処が必要
	LOG_CRIT	2	クリティカルな状態
	LOG_ERR	3	エラー
	LOG_WARNING	4	警告
	LOG_NOTICE	5	正常だが重大な状態
	LOG_INFO	6	情報
	LOG_DEBUG	7	デバッグレベル メッセージ

表 50-2 Call Home の Crash アラート グループのイベントとアクション

TAC への送信 :	Yes		
Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明と実行されるコマンド :
SYSTEM_CRASH	—	—	システム クラッシュに関連するイベント。 show version show logging show region show inventory show stack show switch virtual (VSS モードのみ) more crashinfo (このコマンドは crashinfo ファイルの内容を表示します)
MODULE_CRASH	—	—	システム クラッシュに関連するイベント。 show version show logging show region show stack show switch virtual (VSS モードのみ) more crashinfo (このコマンドは crashinfo ファイルの内容を表示します)
TRACEBACK	—	—	ソフトウェアのトレース バック イベントを検出します。 show version show logging show region show stack show switch virtual (VSS モードのみ)

表 50-3 Call Home の Configuration アラート グループのイベントとアクション

アラート グループの説明 :	設定または設定変更イベントのユーザ生成の要求		
TAC への送信 :	Yes		
実行されるコマンド :	show module、show version、show running-config all、show startup-config、show inventory、show switch virtual (VSS モードのみ)		
Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重 大 度	説明
—	—	—	—

表 50-4 Call Home の Snapshot アラート グループのイベントとアクション

アラート グループの説明 :	ユーザ設定のコマンド リストからの出力。		
TAC への送信 :	Yes		
実行されるコマンド :	Snapshot アラート グループ コンフィギュレーション モードで設定された IOS コマンド。		
Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重 大 度	説明
—	—	—	—

表 50-5 Call Home の Environmental アラート グループのイベントとアクション

アラート グループの説明 :	電源、ファン、温度アラームのような環境感知要素に関連するイベント		
TAC への送信 :	Yes		
実行されるコマンド :	show module、show environment、show logging、show inventory、show power		
Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明
FAN_FAILURE	FANPSINCOMPAT	4	ファントレイと電源モジュール %d に互換性がない
	ALARMCLR	4	指定されたアラーム条件がクリアされ、シャットダウンがキャンセルされた。
	FANHIOOUTPUT	4	バージョン %d 高出力ファントレイが有効である
	FANLOOOUTPUT	4	バージョン %d 低出力ファントレイが有効である
	FANVERCHK	4	挿入されている電源モジュール %d はバージョン %d ファントレイとだけ互換性がある。
	FANTRAYFAILED	4	ファントレイに障害が発生した
	FANTRAYOK	4	ファントレイは正常である
	FANCOUNTFAILED	4	必要な数のファントレイがない
	FANCOUNTOK	4	必要な数のファントレイがある
	PSFANFAIL	4	電源モジュールのファンに障害が発生した
PSFANOK	4	電源モジュールのファンは正常である	
TEMPERATURE_ALARM	MAJORTEMPALARM	2	可能な動作温度範囲を超えている。
	MAJORTEMPALARMRECOVER	4	可能な動作温度範囲に戻った。
	MINORTEMPALARM	4	正常な動作温度範囲を超えている。
	MINORTEMPALARMRECOVER	4	正常な動作温度範囲に戻った。
VTT_FAILED	VTTFAILED	4	VTT %d に障害が発生した。
	VTTOK	4	VTT %d は動作可能である。
	VTTMAJFAILED	0	システムの動作を続行するには VTT の障害が多すぎる。
	VTTMAJRECOVERED	2	システムの動作を続行するために十分な VTT が動作している。

表 50-5 Call Home の Environmental アラート グループのイベントとアクション (続き)

アラート グループの説明 :	電源、ファン、温度アラームのような環境感知要素に関連するイベント		
TAC への送信 :	Yes		
実行されるコマンド :	show module、show environment、show logging、show inventory、show power		
Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明
CLOCK_FAILED	CLOCKFAILED	4	クロックに障害が発生した
	CLOCKOK	4	クロックは動作可能である
	CLOCKMAJFAILED	0	システムの動作を続行するにはクロックの障害が多すぎる
	CLOCKMAJRECOVERED	2	システムの動作を続行するために十分なクロックが動作している
	SHUTDOWN-SCHEDULED	2	%d 秒以内に %s のシャットダウンがスケジュールされている
	SHUTDOWN_NOT_SCHEDULED	2	%s の重大なセンサー アラームは無視され、%s はシャットダウンされない
	SHUTDOWN-CANCELLED	2	シャットダウンがキャンセルされた
	SHUTDOWN	2	%s により %s をただちにシャットダウンする
	SHUTDOWN-DISABLED	1	%s をただちにシャットダウンする必要があるが、シャットダウン処理がディセーブルになっている。
	RESET_SCHEDULED	2	数秒内にシステムのリセットがスケジュールされている
	CLOCK_SWITCHOVER	2	システム スイッチング クロックの変更
	CLOCK_A_MISSING	4	システム内でクロック A が検出できない
	CLOCK_B_MISSING	4	システム内でクロック B が検出できない
	USE_RED_CLOCK	4	システムは冗長クロック (クロック B) を使用している。
	ENABLED	4	スロット %d のモジュールへの電源がオンに設定されている
	DISABLED	4	スロット %d のモジュールへの電源が %s に設定されている
PSOK	4	電源モジュール %d がオンになった。	

表 50-5 Call Home の Environmental アラート グループのイベントとアクション (続き)

アラート グループの説明 :	電源、ファン、温度アラームのような環境感知要素に関連するイベント		
TAC への送信 :	Yes		
実行されるコマンド :	show module、show environment、show logging、show inventory、show power		
Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明
POWER_SUPPLY_FAILURE	PSFAIL	4	電源モジュール %d の出力に障害が発生した。
	PSREDUNDANTMODE	4	電源モジュールは冗長モードに設定されている。
	PSCOMBINEDMODE	4	電源モジュールは連結モードに設定されている。
	PSREDUNDANTMISMATCH	4	電源モジュールのレート出力が一致しない。
	PSMISMATCH	4	電源モジュールのレート出力が一致しない。
	PSNOREDUNDANCY	4	電源モジュールの冗長性が完全ではない。電源の使用量が供給容量の下限を超えた
	PSOCPSHUTDOWN	2	電源の使用量が電源モジュール %d の許容量を超えた。
	PSREDUNDANTONESUPPLY	4	電源冗長モードで、システムは 1 つの電源モジュールで動作している
	PSREDUNDANTBOTHSUPPLY	4	電源冗長モードで、システムは両方の電源モジュールで動作している
	UNDERPOWERED	4	システム内のすべての FRU を動作させるには電力が不十分である。
	COULDNOTREPOWER	4	FRU (スロット %d) に電力を再供給したかったが、できなかった。
	POWERDENIED	4	電力が不十分。スロット %d のモジュールに電力が供給できない。
	UNSUPPORTED	4	スロット %d のモジュールはサポートされておらず、電力が供給できない : %s。
	INSUFFICIENTPOWER	2	重要なすべてのカードを動作させるのに十分な電力がないため、ラインカードすべての電源を切断する
INPUTCHANGE	4	電源モジュール %d の入力に変更された。電力容量が %sW に調整された	
PSINPUTDROP	4	電源モジュール %d の入力がドロップされた	

表 50-6 Call Home の Inventory アラート グループのイベントとアクション

アラート グループの説明 :	Inventory ステータスは、ユニットがコールド ブートされた場合や、FRU が挿入または取り外された場合に指定される。これは、重大ではないイベントと見なされ、情報はステータスと権限付与に使用される。		
TAC への送信 :	Yes		
実行されるコマンド :	匿名モードで送信されるすべてのインベントリ メッセージとフル登録モードで送信されるデルタ インベントリ メッセージに対して実行されるコマンド : show module、show version、show inventory oid、show idprom all、show power、show ip traffic、show switch virtual (VSS モードのみ) フル登録モードで送信されるフル インベントリ メッセージに対して実行されるコマンド : show module、show version、show inventory oid、show idprom all、show power、show interfaces、show file systems、show data-corruption、show memory statistics、show process memory、show process cpu、show process cpu history、show crypto engine configuration、show buffers、show ip nat statistics、show ip traffic、show switch virtual (VSS モードのみ)		
Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明
HARDWARE_INSERTION	INSPS	6	電源モジュールがスロット %d に挿入された
HARDWARE_REMOVAL	REMPS	6	電源モジュールがスロット %d から取り外された
	REMCARD	6	カードがスロット %d から取り外され、インターフェイスがディセーブルになった
	STDBY_REMCARD	6	スタンバイ スーパーバイザの OIR 機能が、アクティブによって、スロット [n] からプロセッサが取り外されたと通知された
HARDWARE_INSERTION	INSCAR	6	カードがスロット %d に挿入され、インターフェイスがオンラインになった
	STDBY_INSCARD	6	スタンバイが通知された。スロット %d のカードがオンラインになっている
	SEQ_MISMATCH	6	スロット %d のカードの SCP シーケンスが一致しない : %s

表 50-6 Call Home の Inventory アラート グループのイベントとアクション (続き)

アラート グループの説明 :	Inventory ステータスは、ユニットがコールド ブートされた場合や、FRU が挿入または取り外された場合に指定される。これは、重大ではないイベントと見なされ、情報はステータスと権限付与に使用される。		
TAC への送信 :	Yes		
実行されるコマンド :	匿名モードで送信されるすべてのインベントリ メッセージとフル登録モードで送信されるデルタ インベントリ メッセージに対して実行されるコマンド : show module、show version、show inventory oid、show idprom all、show power、show ip traffic、show switch virtual (VSS モードのみ) フル登録モードで送信されるフル インベントリ メッセージに対して実行されるコマンド : show module、show version、show inventory oid、show idprom all、show power、show interfaces、show file systems、show data-corruption、show memory statistics、show process memory、show process cpu、show process cpu history、show crypto engine configuration、show buffers、show ip nat statistics、show ip traffic、show switch virtual (VSS モードのみ)		
Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明
HARDWARE_REMOVAL	UNKNOWN	3	スロット %d のカードが不明。カードはディセーブルになる
	STDBY_UNKNOWN	3	スタンバイが通知された。スロット %d のカードが不明
	UNSUPPORTED	3	スロット %d のカードはサポートされていない。%s
	PWRCYCLE	3	モジュール %d のカードは電源サイクル中 %s
	STDBY_PWRCYCLE	3	スタンバイが通知された。モジュール %d のカードは電源サイクル中 %s
	CONSOLE	6	%s プロセッサへのコンソール所有権の変更
	RUNNING_CONFIG	6	スイッチオーバー中に OIR 機能は running-config プロセッサをクリーンアップできない。
	DISALLOW	6	EHSA モードでセカンダリとしてアップさせようとしたスーパーバイザは許可されない
HARDWARE_INSERTION	REMFAN	6	ファン %d が取り外された
	INSFAN	6	ファン %d が挿入された
	PSINSERTED	4	電源モジュールがスロット %d に挿入された。

表 50-7 Call Home の Diagnostic Failure アラート グループのイベントとアクション

アラート グループの説明 :	標準またはインテリジェント ラインカードに関連するイベント	
TAC への送信 :	Yes	
実行されるコマンド :	show module、show diagnostic result Module <#> detail、show version、show inventory、show buffers、show logging、show diagnostic result module all、show logging system last 100	
Call Home 起動イベント :	DIAGNOSTICS_FAILURE	
Syslog イベント	重大度	説明
C2PLUSWITHNODB	2	スロット %d のコンステレーション 2 プラス モジュールにはフォーワーディング ドーター ボードがない。電力が供給できない。
DFCMISMATCH	2	モジュール %d DFC はスーパーバイザ DFC と互換性がない。電力が供給できない。
BADFLOWCTRL	2	モジュール %d は DFC をサポートするのに適切なハードウェア リビジョン レベルではない。電力が供給できない。
BADFLOWCTRL_WARN	2	警告 : モジュール %d は DFC3 をサポートするのに適切なハードウェア リビジョン レベルではない
BADPINN1	2	モジュール %d は PFC3 システムと共存するのに適切なハードウェア リビジョン レベルではない。電力が供給できない。
FANUPGREQ	2	ファンをアップグレードしなければ、モジュール %d はサポートされない
INSUFFCOO	4	モジュール %d は適切に冷却できない
PROVISION	6	モジュール %d はプロビジョニング要件を満たしていない。電力が供給できない
PWRFAILURE	6	電源コンバータの障害により、モジュール %d はディセーブルになる
LC_FAILURE	3	モジュール %d には重大なオンライン診断障害、%s がある
HARD_RESET	3	スイッチオーバー エラー回復の一環としてモジュール %d はハードリセットされる
SOFT_RESET	3	スイッチオーバー エラー回復の一環としてモジュール %d はソフトリセットされる
DOWNGRADE	6	ファブリック対応モジュール %d は適切なハードウェア リビジョン レベルではなく、フロースルー モードでしか実行できない
DIAG_OK		
DIAG_BYPASS		
DIAG_ERROR		
DIAG_MINOR_ERROR		
DIAG_MAJOR_ERROR		
DIAG_LINE_CARD_NOT_PRESENT		
DIAG_LINE_CARD_REMOVED		
DIAG_INVALID_TEST_ID_RANGE		
DIAG_INVALID_PORT_RANGE		
DIAG_IS_BUSY		

表 50-7 Call Home の Diagnostic Failure アラート グループのイベントとアクション (続き)

アラート グループの説明 :	標準またはインテリジェント ラインカードに関連するイベント	
TAC への送信 :	Yes	
実行されるコマンド :	show module、show diagnostic result Module <#> detail、show version、show inventory、show buffers、show logging、show diagnostic result module all、show logging system last 100	
Call Home 起動イベント :	DIAGNOSTICS_FAILURE	
Syslog イベント	重大度	説明
DIAG_IS_IDLE		
DIAG_NO_SCHEDULE		
DIAG_SCHEDULE_EXIST		
DIAG_NO_TEST		
DIAG_UNKNOWN		
DIAG_NOT_AVAILABLE		
DIAG_EXIT_ON_ERROR		
DIAG_EXIT_ON_FAIL_LIMIT_REACHED		
DIAG_INVALID_SCHEDULE		
DIAG_PF_DIAG_NOT_SUPPORTED		
DIAG_IS_STOPPED		
DIAG_INVALID_DEVICE_RANGE		

表 50-8 Call Home の Test アラート グループのイベントとアクション

アラート グループの説明 :	—	
TAC への送信 :	Yes	
実行されるコマンド :	show version、show module、show inventory	
Call Home 起動イベント :	—	
Syslog イベント	重大度	説明
TEST	2	ユーザが作成したテスト メッセージ

メッセージの内容

次の表に、アラート グループ メッセージの内容の形式を示します。

- 表 50-9 では、ショート テキスト メッセージの内容フィールドについて説明しています。
- 表 50-10 では、ロング テキスト メッセージと XML メッセージすべてに共通の内容フィールドについて説明しています。特定のアラート グループ メッセージに固有のフィールドは、共通フィールドの後に挿入されています。
- 表 50-11 に、リアクティブ メッセージ (TAC ケースが必要なシステム障害) およびプロアクティブ メッセージ (システム パフォーマンスの低下を招くことがある問題) の内容フィールドを示します。
- 表 50-12 に、インベントリ メッセージの内容フィールドを示します。

表 50-9 ショート テキスト メッセージの形式

データ項目	説明
Device identification	設定されたデバイス名
Date/time stamp	起動イベントのタイム スタンプ
Error isolation message	起動イベントの簡単な説明 (英語)
Alarm urgency level	システム メッセージに適用されるようなエラー レベル

表 50-10 ロング テキスト メッセージと XML メッセージすべてに共通のフィールド

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	XML タグ (XML のみ)
Time stamp	ISO 時刻通知でのイベントの日付/タイム スタンプ <i>YYYY-MM-DDTHH:MM:SS</i>	CallHome/EventTime
Message name	メッセージの名前。特定のイベント名 は「アラート グループの起動イベント とコマンド」(P.50-5) に記載。	(ショート テキスト メッセージのみ)
Message type	具体的に Call Home。	CallHome/Event/Type
Message subtype	特定のタイプのメッセージ、full、 delta、または test。	CallHome/Event/SubType
Message group	具体的に reactive または proactive。	(ロング テキスト メッセージのみ)
Severity level	メッセージの重大度 (表 50-13 (P.50-36) を参照)。	Body/Block/Severity
Source ID	ルーティングのための製品タイプ。具 体的に Catalyst 6500。	(ロング テキスト メッセージのみ)

表 50-10 ロング テキスト メッセージと XML メッセージすべてに共通のフィールド (続き)

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	XML タグ (XML のみ)
Device ID	<p>メッセージを生成するエンド デバイスの Unique Device Identifier (UDI)。メッセージがファブリック スイッチに固有でない場合、このフィールドは空白。形式は、<i>type@Sid@serial</i>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。 <i>@</i> は区切り文字。 <i>Sid</i> は、シャーシのシリアル番号としてシリアル ID を特定する C。 <i>serial</i> は、[Sid] フィールドによって特定される数字。 <p>例：WS-C6509@C@12345678</p>	CallHome/CustomerData/ContractData/DeviceId
Customer ID	<p>サポート サービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。</p>	CallHome/CustomerData/ContractData/CustomerId
Contract ID	<p>サポート サービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。</p>	CallHome/CustomerData/ContractData/ContractId
Site ID	<p>シスコが提供したサイト ID または別のサポート サービスにとって意味のあるその他のデータに使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。</p>	CallHome/CustomerData/ContractData/SiteId
Server ID	<p>メッセージがファブリック スイッチから生成されている場合、これはスイッチの固有のデバイス ID (UDI)。</p> <p>形式は、<i>type@Sid@serial</i>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。 <i>@</i> は区切り文字。 <i>Sid</i> は、シャーシのシリアル番号としてシリアル ID を特定する C。 <i>serial</i> は、[Sid] フィールドによって特定される数字。 <p>例：WS-C6509@C@12345678</p>	(ロング テキスト メッセージのみ)
Message description	<p>エラーを説明する短い文章。</p>	CallHome/MessageDescription
Device name	<p>イベントが発生するノード。これは、デバイスのホスト名。</p>	CallHome/CustomerData/SystemInfo/Name
Contact name	<p>イベントの発生するノードに関連する問題を連絡する人物の名前。</p>	CallHome/CustomerData/SystemInfo/Contact

表 50-10 ロング テキスト メッセージと XML メッセージすべてに共通のフィールド (続き)

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	XML タグ (XML のみ)
Contact email	このユニットの連絡先として識別される担当者の電子メールアドレス。	CallHome/CustomerData/SystemInfo/ContactEmail
Contact phone number	このユニットの連絡先である人物の電話番号。	CallHome/CustomerData/SystemInfo/ContactPhoneNumber
Street address	このユニットに関連付けられた RMA 部品出荷の住所を含むオプションのフィールド。	CallHome/CustomerData/SystemInfo/StreetAddress
Model name	スイッチのモデル名。これは、製品ファミリ名の一部として固有のモデル。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Model
Serial number	ユニットのシャーシのシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/SerialNumber
Chassis part number	シャーシの最上アセンブリ番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/AdditionalInformation/ AD@name="PartNumber"/
System Object ID	システムを一意に識別するシステム オブジェクト ID。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/AdditionalInformation/ AD@name="sysObjectID"
SysDesc	管理対象デバイスのシステム説明。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/AdditionalInformation/ AD@name="sysDescr"
このアラート グループに対して複数の CLI コマンドが実行されると、次のフィールドが繰り返される場合があります。		
Command output name	発行される CLI コマンドの正確な名前。	/aml/Attachments/Attachment/Name
Attachment type	タイプ (通常はインライン)。	/aml/Attachments/Attachment@type
MIME type	通常はテキスト/プレーンまたは符号化タイプ。	/aml/attachments/attachment/Data@encoding
Command output text	自動的に実行されたコマンドの出力 (「アラートグループの起動イベントとコマンド」(P.50-5) を参照)	/aml/attachments/attachment/atdata

表 50-11 リアクティブまたはプロアクティブ イベント メッセージのフィールド

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	XML タグ (XML のみ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/HardwareVersion
Supervisor module software version	最上レベルのソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/AdditionalInformation/ AD@name="SoftwareVersion"
Affected FRU name	イベント メッセージを生成する、影響のある FRU の名前。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/Model
Affected FRU serial number	問題を起こした FRU のシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/SerialNumber

表 50-11 リアクティブまたはプロアクティブ イベント メッセージのフィールド (続き)

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	XML タグ (XML のみ)
Affected FRU part number	問題を起こした FRU の部品番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/PartNumber
FRU slot	イベント メッセージを生成している FRU のスロット番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/ LocationWithinContainer
FRU hardware version	問題を起こした FRU のハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/HardwareVersion
FRU software version	問題を起こした FRU で動作するソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/SoftwareIdentity/VersionString
Process name	プロセスの名前。	/aml/body/process/name
Process ID	固有のプロセス ID。	/aml/body/process/id
Process state	プロセスの状態 (実行中、中止など)。	/aml/body/process/processState
Process exception	原因コードの例外。	/aml/body/process/exception

表 50-12 Inventory イベント メッセージのフィールド

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	XML タグ (XML のみ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/HardwareVersion
Supervisor module software version	最上レベルのソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/AdditionalInformation/AD@name="Software Version"
FRU name	イベント メッセージを生成する、影響のある FRU の名前。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/Model
FRU s/n	FRU のシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/SerialNumber
FRU part number	FRU の部品番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/PartNumber
FRU slot	FRU のスロット番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/LocationWithinContainer
FRU hardware version	FRU のハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/HardwareVersion
FRU software version	FRU で動作するソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/SoftwareIdentity/VersionString

ロング テキスト形式の Syslog アラート通知の例

```

source:MDS9000
Switch Priority:7
Device Id:WS-C6509@C@FG@07120011
Customer Id:Example.com
Contract Id:123
Site Id:San Jose
Server Id:WS-C6509@C@FG@07120011
Time of Event:2004-10-08T11:10:44
Message Name:SYSLOG_ALERT
Message Type:Syslog
Severity Level:2
System Name:10.76.100.177
Contact Name:User Name
Contact Email:admin@yourcompany.com
Contact Phone:+1 408 555-1212
Street Address:#1234 Picaboo Street, Any city, Any state, 12345
Event Description:2006 Oct 8 11:10:44 10.76.100.177 %PORT-5-IF_TRUNK_UP: %$VSAN 1%$
Interface fc2/5, vsan 1 is up

syslog_facility:PORT
start chassis information:
Affected Chassis:WS-C6509
Affected Chassis Serial Number:FG@07120011
Affected Chassis Hardware Version:0.104
Affected Chassis Software Version:3.1(1)
Affected Chassis Part No:73-8607-01
end chassis information:

```

XML 形式の Syslog アラート通知の例

```

From: example
Sent: Wednesday, April 25, 2007 7:20 AM
To: User (user)
Subject: System Notification From Router - syslog - 2007-04-25 14:19:55
GMT+00:00

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope">
<soap-env:Header>
<aml-session:Session xmlns:aml-session="http://www.example.com/2004/01/aml-session"
soap-env:mustUnderstand="true"
soap-env:role="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope/role/next">
<aml-session:To>http://tools.example.com/services/DDCEService</aml-session:To>
<aml-session:Path>
<aml-session:Via>http://www.example.com/appliance/uri</aml-session:Via>
</aml-session:Path>
<aml-session:From>http://www.example.com/appliance/uri</aml-session:From>
<aml-session:MessageId>M2:69000101:C9D9E20B</aml-session:MessageId>
</aml-session:Session>
</soap-env:Header>
<soap-env:Body>
<aml-block:Block xmlns:aml-block="http://www.example.com/2004/01/aml-block">
<aml-block:Header>
<aml-block:Type>http://www.example.com/2005/05/callhome/syslog</aml-block:Type>
<aml-block:CreationDate>2007-04-25 14:19:55 GMT+00:00</aml-block:CreationDate>
<aml-block:Builder>
<aml-block:Name>Cat6500</aml-block:Name>
<aml-block:Version>2.0</aml-block:Version>
</aml-block:Builder>

```

```

<aml-block:BlockGroup>
<aml-block:GroupId>G3:69000101:C9F9E20C</aml-block:GroupId>
<aml-block:Number>0</aml-block:Number>
<aml-block:IsLast>>true</aml-block:IsLast>
<aml-block:IsPrimary>>true</aml-block:IsPrimary>
<aml-block:WaitForPrimary>>false</aml-block:WaitForPrimary>
</aml-block:BlockGroup>
<aml-block:Severity>2</aml-block:Severity>
</aml-block:Header>
<aml-block:Content>
<ch:CallHome xmlns:ch="http://www.example.com/2005/05/callhome" version="1.0">
<ch:EventTime>2007-04-25 14:19:55 GMT+00:00</ch:EventTime>
<ch:MessageDescription>03:29:29: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all interfaces by
console</ch:MessageDescription>
<ch:Event>
<ch>Type>syslog</ch>Type>
<ch:SubType></ch:SubType>
<ch:Brand>Cisco Systems</ch:Brand>
<ch:Series>Catalyst 6500 Series Switches</ch:Series>
</ch:Event>
<ch:CustomerData>
<ch:UserData>
<ch:Email>user@example.com</ch:Email>
</ch:UserData>
<ch:ContractData>
<ch:CustomerId>12345</ch:CustomerId>
<ch:SiteId>building 1</ch:SiteId>
<ch:ContractId>abcdefg12345</ch:ContractId>
<ch:DeviceId>WS-C6509@C@69000101</ch:DeviceId>
</ch:ContractData>
<ch:SystemInfo>
<ch>Name>Router</ch>Name>
<ch>Contact></ch>Contact>
<ch:ContactEmail>user@example.com</ch:ContactEmail>
<ch:ContactPhoneNumber>+1 408 555-1212</ch:ContactPhoneNumber>
<ch:StreetAddress>270 E. Tasman Drive, San Jose, CA</ch:StreetAddress>
</ch:SystemInfo>
</ch:CustomerData>
<ch:Device>
<rme:Chassis xmlns:rme="http://www.example.com/rme/4.0">
<rme:Model>WS-C6509</rme:Model>
<rme:HardwareVersion>1.0</rme:HardwareVersion>
<rme:SerialNumber>69000101</rme:SerialNumber>
<rme:AdditionalInformation>
<rme:AD name="PartNumber" value="73-3438-03 01" />
<rme:AD name="SoftwareVersion" value="12.2(20070421:012711)" />
</rme:AdditionalInformation>
</rme:Chassis>
</ch:Device>
</ch:CallHome>
</aml-block:Content>
<aml-block:Attachments>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block>Name>show logging</aml-block>Name>
<aml-block>Data encoding="plain">
<![CDATA[
Syslog logging: enabled (0 messages dropped, 0 messages rate-limited, 0 flushes, 0
overruns, xml disabled, filtering disabled)
  Console logging: level debugging, 53 messages logged, xml disabled,
    filtering disabled
  Monitor logging: level debugging, 0 messages logged, xml disabled,
    filtering disabled
  Buffer logging: level debugging, 53 messages logged, xml disabled,
    filtering disabled
]]>

```

```
Exception Logging: size (4096 bytes)
Count and timestamp logging messages: disabled
Trap logging: level informational, 72 message lines logged
```

```
Log Buffer (8192 bytes):
```

```
00:00:54: curr is 0x20000
```

```
00:00:54: RP: Currently running ROMMON from F2 region
00:01:05: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from memory by console
00:01:09: %SYS-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, s72033_rp Software (s72033_rp-ADVENTERPRISEK9_DBG-VM), Experimental
Version 12.2(20070421:012711)
Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 15:54 by xxx
```

```
Firmware compiled 11-Apr-07 03:34 by integ Build [100]
```

```
00:01:01: %PFREDUN-6-ACTIVE: Initializing as ACTIVE processor for this switch
```

```
00:01:01: %SYS-3-LOGGER_FLUSHED: System was paused for 00:00:00 to ensure console
debugging output.
```

```
00:03:00: SP: SP: Currently running ROMMON from F1 region
00:03:07: %C6K_PLATFORM-SP-4-CONFREG_BREAK_ENABLED: The default factory setting for config
register is 0x2102.It is advisable to retain 1 in 0x2102 as it prevents returning to
ROMMON when break is issued.
```

```
00:03:18: %SYS-SP-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, s72033_sp Software (s72033_sp-ADVENTERPRISEK9_DBG-VM), Experimental
Version 12.2(20070421:012711)
Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 18:00 by xxx
```

```
00:03:18: %SYS-SP-6-BOOTTIME: Time taken to reboot after reload = 339 seconds
```

```
00:03:18: %OIR-SP-6-INSPTS: Power supply inserted in slot 1
```

```
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSOK: power supply 1 turned on.
```

```
00:03:18: %OIR-SP-6-INSPTS: Power supply inserted in slot 2
```

```
00:01:09: %SSH-5-ENABLED: SSH 1.99 has been enabled
```

```
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSOK: power supply 2 turned on.
```

```
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSREDUNDANTMISMATCH: power supplies rated outputs do not match.
```

```
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSREDUNDANTBOTHSUPPLY: in power-redundancy mode, system is
operating on both power supplies.
```

```
00:01:10: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
```

```
00:01:10: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
```

```
00:03:20: %C6KENV-SP-4-FANHIOUTPUT: Version 2 high-output fan-tray is in effect
```

```
00:03:22: %C6KPWR-SP-4-PSNOREDUNDANCY: Power supplies are not in full redundancy, power
usage exceeds lower capacity supply
```

```
00:03:26: %FABRIC-SP-5-FABRIC_MODULE_ACTIVE: The Switch Fabric Module in slot 6 became
active.
```

```
00:03:28: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 6: Running Minimal Diagnostics...
```

```
00:03:50: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 6: Passed Online Diagnostics
```

```
00:03:50: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 6, interfaces are now online
```

```
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 3: Running Minimal Diagnostics...
```

```
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 7: Running Minimal Diagnostics...
```

```
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 9: Running Minimal Diagnostics...
```

```
00:01:51: %MFIB_CONST_RP-6-REPLICATION_MODE_CHANGE: Replication Mode Change Detected.
Current system replication mode is Ingress
```

```
00:04:01: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 3: Passed Online Diagnostics
```

```
00:04:01: %OIR-SP-6-DOWNGRADE: Fabric capable module 3 not at an appropriate hardware
revision level, and can only run in flowthrough mode
```

```
00:04:02: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 3, interfaces are now online
```

```
00:04:11: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 7: Passed Online Diagnostics
```

```
00:04:14: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 7, interfaces are now online
```

```
00:04:35: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 9: Passed Online Diagnostics
00:04:37: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 9, interfaces are now online
00:00:09: DaughterBoard (Distributed Forwarding Card 3)
```

```
Firmware compiled 11-Apr-07 03:34 by integ Build [100]
```

```
00:00:22: %SYS-DFC4-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, c6lc2 Software (c6lc2-SPDBG-VM), Experimental Version
12.2(20070421:012711)
Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 17:20 by xxx
00:00:23: DFC4: Currently running ROMMON from F2 region
00:00:25: %SYS-DFC2-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, c6slc Software (c6slc-SPDBG-VM), Experimental Version
12.2(20070421:012711)
Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 16:40 by username1
00:00:26: DFC2: Currently running ROMMON from F2 region
00:04:56: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 4: Running Minimal Diagnostics...
00:00:09: DaughterBoard (Distributed Forwarding Card 3)
```

```
Firmware compiled 11-Apr-07 03:34 by integ Build [100]
```

```
slot_id is 8
```

```
00:00:31: %FLASHFS_HES-DFC8-3-BADCARD: /bootflash:: The flash card seems to be corrupted
00:00:31: %SYS-DFC8-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, c6lc2 Software (c6lc2-SPDBG-VM), Experimental Version
12.2(20070421:012711)
Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 17:20 by username1
00:00:31: DFC8: Currently running ROMMON from S (Gold) region
00:04:59: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 2: Running Minimal Diagnostics...
00:05:12: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 8: Running Minimal Diagnostics...
00:05:13: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 1: Running Minimal Diagnostics...
00:00:24: %SYS-DFC1-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, c6slc Software (c6slc-SPDBG-VM), Experimental Version
12.2(20070421:012711)
Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 16:40 by username1
00:00:25: DFC1: Currently running ROMMON from F2 region
00:05:30: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 4: Passed Online Diagnostics
00:05:31: %SPAN-SP-6-SPAN_EGRESS_REPLICATION_MODE_CHANGE: Span Egress HW Replication Mode
Change Detected. Current replication mode for unused asic session 0 is Centralized
00:05:31: %SPAN-SP-6-SPAN_EGRESS_REPLICATION_MODE_CHANGE: Span Egress HW Replication Mode
Change Detected. Current replication mode for unused asic session 1 is Centralized
00:05:31: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 4, interfaces are now online
00:06:02: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 1: Passed Online Diagnostics
00:06:03: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 1, interfaces are now online
00:06:31: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 2: Passed Online Diagnostics
00:06:33: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 2, interfaces are now online
00:04:30: %XDR-6-XDRIPCNOTIFY: Message not sent to slot 4/0 (4) because of IPC error
timeout. Disabling linecard. (Expected during linecard OIR)
00:06:59: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 8: Passed Online Diagnostics
00:06:59: %OIR-SP-6-DOWNGRADE_EARL: Module 8 DFC installed is not identical to system PFC
and will perform at current system operating mode.
00:07:06: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 8, interfaces are now online
```

```
Router#]]></aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
</aml-block:Attachments>
</aml-block:Block>
</soap-env:Body>
```

```
</soap-env:Envelope>
```

Call Home のデフォルト設定

- Call Home 機能のステータス：ディセーブル
- ユーザ定義プロファイルのステータス：アクティブ
- 定義済みのシスコ TAC プロファイルのステータス：非アクティブ
- 転送方式：電子メール
- メッセージのフォーマットタイプ：XML
- ロング テキスト、ショート テキスト、または XML 形式で送信されるメッセージの宛先メッセージ サイズ：3,145,728
- アラート グループのステータス：イネーブル
- Call Home メッセージの重大度しきい値：0（デバッグ）
- 1 分間に送信するメッセージのレート制限：20
- AAA 認証：ディセーブル
- Call Home の syslog メッセージ スロットリング：イネーブル
- データ プライバシー レベル：標準

Call Home の設定方法

- 「Call Home の顧客連絡先情報の設定」 (P.50-23)
- 「宛先プロファイルの設定」 (P.50-24)
- 「アラート グループへの登録」 (P.50-33)
- 「Call Home データ プライバシーの設定」 (P.50-39)
- 「Call Home のイネーブル化」 (P.50-40)
- 「Call Home トラフィック レート制限の設定」 (P.50-40)
- 「syslog スロットリングの設定」 (P.50-40)
- 「Call Home の通信のテスト」 (P.50-41)
- 「Smart Call Home サービスの設定」 (P.50-44)

Call Home の顧客連絡先情報の設定

顧客の連絡先情報を設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ1	Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	Router (config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。

コマンド	目的
ステップ3 Router (cfg-call-home) # contact-email-addr email-address	(匿名モードのオプション) 顧客の電子メール アドレスを割り当てます。スペースを入れず電子メール アドレス形式で 200 文字まで入力します。
ステップ4 Router (cfg-call-home) # phone-number +phone-number	(任意) 顧客の電話番号を割り当てます。 (注) 番号はプラス (+) 記号で始まり、ダッシュ (-) と数字だけが含まれるようにしてください。最大 16 文字まで入力できます。スペースを入力する場合は、エントリを引用符 (") で囲みます。
ステップ5 Router (cfg-call-home) # street-address street-address	(任意) RMA 機器の配送先である顧客の住所を割り当てます。最大 200 文字まで入力できます。スペースを入力する場合は、エントリを引用符 (") で囲みます。
ステップ6 Router (cfg-call-home) # customer-id text	(任意) カスタマー ID を指定します。最大 64 文字まで入力できます。スペースを入力する場合は、エントリを引用符 (") で囲みます。
ステップ7 Router (cfg-call-home) # site-id text	(任意) カスタマーのサイト ID を指定します。最大 200 文字まで入力できます。スペースを入力する場合は、エントリを引用符 (") で囲みます。
ステップ8 Router (cfg-call-home) # contract-id text	(任意) 顧客のスイッチの契約 ID を指定します。最大 64 文字まで入力できます。スペースを入力する場合は、エントリを引用符 (") で囲みます。

次に、連絡先情報の設定例を示します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# call-home
Router(cfg-call-home)# contact-email-addr username@example.com
Router(cfg-call-home)# phone-number +1-800-555-4567
Router(cfg-call-home)# street-address "1234 Picaboo Street, Any city, Any state, 12345"
Router(cfg-call-home)# customer-id Customer1234
Router(cfg-call-home)# site-id Site1ManhattanNY
Router(cfg-call-home)# contract-id Company1234
Router(cfg-call-home)# exit
Router(config)#
```

宛先プロファイルの設定

- 「宛先プロファイルの概要」(P.50-25)
- 「VRF を使用するように Call Home を設定」(P.50-25)
- 「電子メール メッセージを送信するように宛先プロファイルを設定」(P.50-26)
- 「匿名モードプロファイルの設定」(P.50-28)
- 「HTTP プロキシ サーバの設定」(P.50-29)
- 「syslog スロットリングの設定」(P.50-40)
- 「宛先プロファイル管理」(P.50-31)

宛先プロファイルの概要

宛先プロファイルには、アラート通知に必要な送信情報が含まれています。少なくとも 1 つの宛先プロファイルが必要です。1 つまたは複数のタイプの複数の宛先プロファイルを設定できます。

定義済みの宛先プロファイルを使用することも、プロファイルを定義することもできます。新しい宛先プロファイルを定義する場合は、プロファイル名を割り当てる必要があります。

宛先プロファイルには、次の属性を設定できます。

- プロファイル名：ユーザ定義宛先プロファイルを一意に識別する文字列。プロファイル名は 31 文字までで大文字と小文字は区別されません。プロファイル名として **all** は使用できません。
- 転送方法：アラートを送信するための転送メカニズム（電子メールまたは HTTP（HTTPS を含む））。
 - ユーザ定義の宛先プロファイルの場合、電子メールがデフォルトで、どちらかまたは両方の転送メカニズムをイネーブルにできます。両方の方法をディセーブルにすると、電子メールがイネーブルになります。
 - あらかじめ定義された Cisco TAC プロファイルの場合、いずれかの転送メカニズムをイネーブルにできますが、同時にはイネーブルにできません。
- 宛先アドレス：アラートを送信する転送方法に関連した実際のアドレス。
- メッセージ形式：アラートの送信に使用するメッセージ形式。
 - ユーザ定義の宛先プロファイルの場合、形式オプションは、ロングテキスト、ショートテキスト、または XML です。デフォルトは XML です。
 - 定義済みのシスコ TAC プロファイルは XML を使用します。
- メッセージサイズ：宛先メッセージの最大サイズ。有効な範囲は、50 ～ 3,145,728 バイトで、デフォルトは 3,145,728 バイトです。



(注)

- Call Home 機能は、デフォルトで非アクティブな CiscoTAC-1 という名前の事前に定義されたプロファイルを提供します。CiscoTAC-1 プロファイルは、Smart Call Home サービスで使用することを目的としており、このサービスを Call Home 機能でイネーブルにするための特定の追加設定手順が必要です。このプロファイルの詳細については、「[定義済みの CiscoTAC-1 宛先プロファイルの使用](#)」(P.50-32) を参照してください。
- Cisco Smart Call Home サービスを使用する場合、宛先プロファイルは XML メッセージ形式を使用する必要があります。

VRF を使用するように Call Home を設定

Call Home 電子メールまたは HTTP メッセージに VRF インターフェイスを使用するように Call Home を設定するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	Router# configure terminal	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ2	Router(config)# interface type	設定するインターフェイスを選択します。
ステップ3	Router(config-if)# ip address ip_address mask	IP アドレスとサブネット マスクをインターフェイスに割り当てます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ4	Router(config-if)# vrf forwarding <i>call_home_vrf_name</i>	インターフェイスに <i>call_home_vrf_name</i> VRF インスタンスを関連付けます。
ステップ5	Router(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

次に、VRF インターフェイスを使用するように Call Home を設定する例を示します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# interface gigabitethernet 1/1
Router(config-if)# ip address 10.10.10.10 0.0.0.0
Router(config-if)# vrf forwarding call_home_vrf
Router(config-if)# exit
Router(config)#
```

電子メール メッセージを送信するように宛先プロファイルを設定

- 「電子メール メッセージに VRF を使用するように Call Home を設定」(P.50-26) (任意)
- 「メール サーバの設定」(P.50-27) (必須)
- 「電子メールの宛先プロファイルの設定」(P.50-27) (必須)



(注) VRF インターフェイスを介して Call Home 電子メール メッセージを送信するには、VRF を使用するように Call Home を設定します (「VRF を使用するように Call Home を設定」(P.50-25) を参照)。

電子メール メッセージに VRF を使用するように Call Home を設定

Call Home 電子メール メッセージに VRF インスタンスを使用するように Call Home を設定するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	Router(config)# call-home	Call Home 設定サブモードを開始します。
ステップ3	Router(cfg-call-home)# vrf call_home_vrf_name	Call Home 電子メール メッセージに使用する VRF インスタンスを指定します。

次に、VRF インターフェイスを使用するように Call Home を設定する例を示します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# call-home
Router(cfg-call-home)# vrf call_home_vrf
Router(cfg-call-home)# exit
Router(config)#
```

メール サーバの設定

電子メール メッセージの転送を使用するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	Router(cfg-call-home)# mail-server { <i>ipv4-address</i> <i>ipv6-address</i> <i>name</i> } priority number	電子メール サーバ、および設定された電子メール サーバ間の相対プライオリティを指定します。それぞれの説明は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>ipv4-address</i> : メール サーバの IPv4 アドレスを指定します。 • <i>ipv6-address</i> : メール サーバの IPv6 アドレスを指定します。 • <i>name</i> : 電子メール サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を 64 文字以下で指定します。 • <i>number</i> : 1 (最高のプライオリティ) から 100 (最低のプライオリティ) の番号を割り当てます。より高いプライオリティ (より小さい数値) が最初に試行されます。 • バックアップ電子メール サーバを定義するために繰り返します。最大で 4 つのバックアップ電子メール サーバ、つまり合計で 5 つの電子メール サーバを設定できます。

次に、プライマリ メール サーバ (「smtp.example.com」という名前) と、IP アドレスが 192.168.0.1 のセカンダリ メール サーバの設定の例を示します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# call-home
Router(cfg-call-home)# mail-server smtp.example.com priority 1
Router(cfg-call-home)# mail-server 192.168.0.1 priority 2
Router(cfg-call-home)# exit
Router(config)#
```

電子メールの宛先プロファイルの設定

電子メール転送の宛先プロファイルを設定するには、次の作業を実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	Router(cfg-call-home)# sender from <i>email-address</i>	(任意) Call Home 電子メール メッセージの [from] フィールドに表示される電子メール アドレスを割り当てます。アドレスを指定しなかった場合は、連絡先の電子メール アドレスが使用されます。

Call Home の設定方法

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	Router(cfg-call-home)# sender reply-to email-address	(任意) Call Home 電子メール メッセージの [reply-to] フィールドに表示される電子メール アドレスを割り当てます。
ステップ 5	Router(cfg-call-home)# source-ip-address ip_address	(任意) Call Home 電子メール メッセージに使用する送信元 IPv4 または IPv6 アドレスを割り当てます。
ステップ 6	Router(cfg-call-home)# source-interface interface-name	(任意) Call Home E メール メッセージの宛先となる送信元インターフェイス名を指定します。送信元インターフェイス名または送信元 IP アドレスが指定されていない場合、ルーティング テーブルのインターフェイスが使用されます。
ステップ 7	Router(config-call-home)# profile name	指定された宛先プロファイル名の Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。指定された宛先プロファイルが存在しない場合、作成されません。
ステップ 8	Router(cfg-call-home-profile)# destination transport-method email	電子メールのメッセージ転送方法を設定します。(これはデフォルトです)。
ステップ 9	Router(cfg-call-home-profile)# destination address email email_address	Call Home メッセージが送信される宛先電子メール アドレスを設定します。
ステップ 10	Router(cfg-call-home-profile)# destination preferred-msg-format {long-text short-text xml}	(任意) 使用するメッセージ形式を設定します。デフォルトは XML です。
ステップ 11	Router(cfg-call-home-profile)# destination message-size bytes	(任意) 宛先プロファイルの最大宛先メッセージ サイズ (50 ~ 3145728 バイト) を設定します。デフォルトは 3145728 バイトです。
ステップ 12	Router(cfg-call-home-profile)# active	(任意) 宛先プロファイルをイネーブルにします。デフォルトでは、ユーザ定義プロファイルは作成時にイネーブルになります。
ステップ 13	Router(cfg-call-home-profile)# exit	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、Call Home コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 14	Router(cfg-call-home)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

匿名モード プロファイルの設定

匿名モードのプロファイルを設定するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal	コンフィギュレーション モードに入ります。
	例 : Router# configure terminal	
ステップ 2	call-home	Call Home 設定サブモードに入ります。
	例 : Router(config)# call-home	

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ3	<p><code>profile name</code></p> <p>例： Router(cfg-call-home) profile CiscoTAC-1</p>	TAC プロファイルを選択し、プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ4	<p><code>anonymous-reporting-only</code></p> <p>例： Router(cfg-call-home-profile)# anonymous-reporting-only</p>	<p>TAC プロファイルに対して匿名モードをイネーブルにします。</p> <p>(注) デフォルトでは、CiscoTAC-1 プロファイルはプロファイルに登録されているすべてのイベントタイプが記載された完全なレポートを送信します。 anonymous-reporting-only が設定されていると、クラッシュ、インベントリ、およびテストメッセージだけが送信されます。</p>

HTTP プロキシ サーバの設定

Call Home HTTP (S) メッセージの HTTP プロキシ サーバを指定するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<p><code>configure terminal</code></p> <p>例： Router# configure terminal</p>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<p><code>call-home</code></p> <p>例： Router(config)# call-home</p>	Call Home 設定サブモードを開始します。
ステップ3	<p><code>http-proxy {ipv4-address ipv6-address name} port port-number</code></p> <p>例： Router(cfg-call-home)# http-proxy 1.1.1.1 port 1</p>	HTTP 要求のプロキシ サーバを指定します。

HTTP メッセージを送信するように宛先プロファイルを設定

- 「HTTP ソース インターフェイスの設定」 (P.50-30)
- 「HTTP の宛先プロファイルの設定」 (P.50-30)

HTTP ソース インターフェイスの設定

HTTP クライアント ソース インターフェイスを設定するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Router(config)# ip http client source-interface <i>type number</i>	HTTP クライアントのソース インターフェイスを設定します。インターフェイスが VRF インスタンスに関連付けられている場合、HTTP メッセージは VRF インスタンスを使用します。

HTTP の宛先プロファイルの設定

HTTP 転送の宛先プロファイルを設定するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router(config-call-home)# profile name	指定された宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。指定された宛先プロファイルが存在しない場合、作成されます。
ステップ 4	Router(cfg-call-home-profile)# destination transport-method http	HTTP メッセージの転送方法をイネーブルにします。
ステップ 5	Router(cfg-call-home-profile)# destination address http url	Call Home メッセージが送信される宛先 URL を設定します。 (注) 宛先 URL を入力する場合は、サーバがセキュアサーバであるかどうかに応じて http:// または https:// を指定します。宛先がセキュアサーバである場合、トラストポイント CA も設定する必要があります。
ステップ 6	Router(cfg-call-home-profile)# destination preferred-msg-format { long-text short-text xml }	(任意) 使用するメッセージ形式を設定します。デフォルトは XML です。
ステップ 7	Router(cfg-call-home-profile)# destination message-size bytes	(任意) 宛先プロファイルの宛先メッセージの最大サイズを設定します。
ステップ 8	Router(cfg-call-home-profile)# active	宛先プロファイルをイネーブルにします。デフォルトでは、プロファイルは作成時にイネーブルになります。
ステップ 9	Router(cfg-call-home-profile)# exit	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、Call Home コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 10	Router(cfg-call-home)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

次に、HTTP 転送の宛先プロファイルを設定する例を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# call-home
Router(config-call-home)# profile test
Router(cfg-call-home-profile)# destination transport-method http
Router(cfg-call-home-profile)# destination address http https://example.url.com
```

```

Router(cfg-call-home-profile)# destination preferred-msg-format xml
Router(cfg-call-home-profile)# destination message-size 3,145,728
Router(cfg-call-home-profile)# active
Router(cfg-call-home-profile)# exit
Router(cfg-call-home)# end

```

宛先プロファイル管理

- 「宛先プロファイルのアクティブ化および非アクティブ化」 (P.50-31)
- 「宛先プロファイルのコピー」 (P.50-32)
- 「宛先プロファイルの名前変更」 (P.50-32)
- 「定義済みの CiscoTAC-1 宛先プロファイルの使用」 (P.50-32)
- 「Call Home プロファイル設定の確認」 (P.50-33)

宛先プロファイルのアクティブ化および非アクティブ化

定義済み CiscoTAC-1 プロファイルを除き、すべての Call Home 宛先プロファイルが作成時に自動的にアクティブになります。プロファイルをすぐに使用しない場合は、そのプロファイルを非アクティブ化できます。CiscoTAC-1 プロファイルは、デフォルトで非アクティブとなっており、使用するにはアクティブにする必要があります。

宛先プロファイルをアクティブ化または非アクティブ化するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	Router(config-call-home)# profile name	指定された宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。指定された宛先プロファイルが存在しない場合、作成されます。
ステップ4	Router(cfg-call-home-profile)# active	宛先プロファイルをイネーブルにします。デフォルトでは、新しいプロファイルは作成時にイネーブルになります。
ステップ5	Router(cfg-call-home-profile)# no active	宛先プロファイルをディセーブルにします。
ステップ6	Router(cfg-call-home)# end	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

次に、宛先プロファイルをアクティブにする例を示します。

```

Router# configure terminal
Router(config)# call-home
Router(config-call-home)# profile test
Router(cfg-call-home-profile)# active
Router(cfg-call-home)# end

```

次に、宛先プロファイルを非アクティブにする例を示します。

```

Router# configure terminal
Router(config)# call-home
Router(config-call-home)# profile test
Router(cfg-call-home-profile)# no active
Router(cfg-call-home)# end

```

宛先プロファイルのコピー

既存のプロファイルをコピーして新しい宛先プロファイルを作成するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router(cfg-call-home)# copy profile <i>source_profile target_profile</i>	既存の宛先プロファイルと同じ設定で新しい宛先プロファイルを作成します。それぞれの説明は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>source_profile</i> : 既存プロファイル名を指定します。 • <i>target_profile</i> : プロファイルの新しいコピーの名前を指定します。

次に、宛先プロファイルをアクティブにする例を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# call-home
Router(config-call-home)# profile test
Router(cfg-call-home-profile)# copy profile profile1 profile2
```

宛先プロファイルの名前変更

既存のプロファイルの名前を変更するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router(cfg-call-home)# rename profile <i>source_profile target_profile</i>	既存のソース ファイルの名前を変更します。それぞれの説明は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>source_profile</i> : 既存プロファイル名を指定します。 • <i>target_profile</i> : 既存プロファイルの新しい名前を指定します。

次に、宛先プロファイルをアクティブにする例を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# call-home
Router(config-call-home)# profile test
Router(cfg-call-home-profile)# rename profile profile1 profile2
```

定義済みの CiscoTAC-1 宛先プロファイルの使用

CiscoTAC-1 プロファイルは、Cisco Smart Call Home サービスで使用するために、Call Home 機能で自動的に設定されています。このプロファイルには、宛先電子メールアドレスや HTTPS URL などの特定の情報、および Smart Call Home サービスと通信するためのデフォルトのアラート グループが含まれています。宛先電子メールアドレス、HTTPS URL、メッセージ形式など、一部の属性は変更できません。

電子メールまたは HTTP 転送を使用して、Smart Call Home サービスのバックエンドサーバと通信できます。デフォルトでは、CiscoTAC-1 プロファイルは非アクティブであり、デフォルトの転送方法として電子メールが使用されます。電子メール転送を使用するには、このプロファイルをイネーブルにす

るだけです。ただし、(HTTPS を介して) Cisco Smart Call Home サービス セキュア サーバでこのプロファイルを使用する場合は、プロファイルをイネーブルにするだけでなく、次の例に示すように、転送方法を HTTP に変更することも必要です。

```
Router# configure terminal
Router(config)# call-home
Router(config-call-home)# profile CiscoTAC-1
Router(cfg-call-home-profile)# destination transport-method http
Router(cfg-call-home-profile)# active
```

Smart Call Home サービスを設定するための追加要件の詳細については、「[Smart Call Home の概要](#)」(P.50-44) を参照してください。

Call Home プロファイル設定の確認

Call Home のプロファイル設定を確認するには、**show call-home profile** コマンドを使用します。詳細および例については、「[Call Home 設定の確認](#)」(P.50-47) を参照してください。

アラート グループへの登録

- 「[アラート グループの登録の概要](#)」(P.50-33)
- 「[アラート グループの登録の設定](#)」(P.50-34)
- 「[定期通知](#)」(P.50-35)
- 「[メッセージの重大度しきい値](#)」(P.50-35)
- 「[スナップショット コマンド リストの設定](#)」(P.50-37)
- 「[Call Home メッセージの IOS コマンドを実行するための AAA 認証のイネーブル化](#)」(P.50-37)
- 「[Syslog パターン マッチングの設定](#)」(P.50-38)

アラート グループの登録の概要

アラート グループは、すべてのスイッチでサポートされる Call Home アラートの定義済みのサブセットです。Call Home アラートはタイプごとに別のアラート グループにグループ化されます。次のアラート グループが使用できます。

- Crash
- Configuration
- Diagnostic
- Environment
- Inventory
- Snapshot
- Syslog

各アラート グループの起動イベントは「[アラート グループの起動イベントとコマンド](#)」(P.50-5) に示しています。アラート グループ メッセージの内容は「[メッセージの内容](#)」(P.50-15) に示しています。

宛先プロファイルごとに受信するアラート グループを 1 つまたは複数選択できます。



(注) Call Home アラートは、その Call Home アラートが含まれているアラート グループに登録されている宛先プロファイルにしか送信されません。さらに、アラート グループをイネーブルにする必要があります。

アラート グループの登録の設定

宛先プロファイルをアラート グループに登録するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Router(config)# call-home	Call Home 設定サブモードを開始します。
ステップ 3	Router(cfg-call-home)# alert-group {all configuration crash diagnostic environment inventory snapshot syslog}	指定されたアラート グループをイネーブルにします。すべてのアラート グループをイネーブルにするには、 all キーワードを使用します。デフォルトでは、すべてのアラート グループがイネーブルになります。
ステップ 4	Router(cfg-call-home)# profile name	指定された宛先プロファイルに対する Call Home 宛先プロファイル設定サブモードを開始します。
ステップ 5	Router(cfg-call-home-profile)# subscribe-to-alert-group all	最も低い重大度を使用しているすべての使用可能なアラート グループにこの宛先プロファイルに登録します。 (注) <ul style="list-style-type: none"> このコマンドは、syslog のデバッグのデフォルトの重大度に登録されます。これにより、大量の syslog メッセージが生成されます。可能な場合は、適切な重大度およびパターンを使用してアラート グループに個別に登録してください。 代わりに、次の手順に従って、特定のタイプごとにアラート グループに個別に登録できます。
ステップ 6	Router(cfg-call-home-profile)# subscribe-to-alert-group configuration [periodic {daily hh:mm monthly date hh:mm weekly day hh:mm}]	この宛先プロファイルを Configuration アラート グループに登録します。Configuration アラート グループは、「 定期通知 」(P.50-35) で説明しているように、定期的な通知用に設定できます。
ステップ 7	subscribe-to-alert-group crash 例 : Router(cfg-call-home-profile)# subscribe-to-alert-group crash	ユーザプロファイルの Crash アラート グループに登録します。デフォルトで TAC プロファイルは Crash アラート グループに登録され、登録を解除できません。
ステップ 8	Router(cfg-call-home-profile)# subscribe-to-alert-group diagnostic [severity {catastrophic critical debugging disaster fatal major minor normal notification warning}]	この宛先プロファイルを Diagnostic アラート グループに登録します。Diagnostic アラート グループは、「 メッセージの重大度しきい値 」(P.50-35) で説明しているように、重大度に応じてメッセージをフィルタするよう設定できます。
ステップ 9	Router(cfg-call-home-profile)# subscribe-to-alert-group environment [severity {catastrophic critical debugging disaster fatal major minor normal notification warning}]	この宛先プロファイルを Environment アラート グループに登録します。Environment アラート グループは、「 メッセージの重大度しきい値 」(P.50-35) で説明しているように、重大度に応じてメッセージをフィルタするよう設定できます。

コマンド	目的
ステップ 10 Router (cfg-call-home-profile) # subscribe-to-alert-group inventory [periodic {daily hh:mm monthly date hh:mm weekly day hh:mm}]	この宛先プロファイルを Inventory アラート グループに登録します。Inventory アラート グループは、「 定期通知 」(P.50-35) で説明しているように、定期的な通知用に設定できます。
ステップ 11 subscribe-to-alert-group snapshot [periodic {daily hh:mm hourly mm interval mm monthly date hh:mm weekly day hh:mm}] 例 : Router (cfg-call-home-profile) # subscribe-to-alert-group snapshot periodic daily 12:00	この宛先プロファイルを Snapshot アラート グループに登録します。Snapshot アラート グループは、「 定期通知 」(P.50-35) で説明しているように、定期的な通知用に設定できます。 デフォルトでは、Snapshot アラート グループに実行するコマンドはありません。コマンド出力をスナップショット メッセージに表示するには、「 スナップショット コマンド リストの設定 」(P.50-37) で説明しているように、アラート グループにコマンドを追加します。
ステップ 12 Router (cfg-call-home-profile) # subscribe-to-alert-group syslog [severity {catastrophic disaster fatal critical major minor warning notification normal debugging}] [pattern string]	この宛先プロファイルを Syslog アラート グループに登録します。Syslog アラート グループは、「 メッセージの重大度しきい値 」(P.50-35) で説明しているように、重大度に応じてメッセージをフィルタするよう設定できます。「 Syslog パターン マッチングの設定 」(P.50-38) で説明しているように、syslog メッセージで一致するパターンを指定できます。パターンにスペースが含まれている場合は、引用符 (") で囲みます。
ステップ 13 Router (cfg-call-home-profile) # exit	Call Home 宛先プロファイル設定サブモードを終了します。

定期通知

Configuration、Snapshot、または Inventory アラート グループに宛先プロファイルに登録すると（「[アラート グループの登録の設定](#)」(P.50-34) を参照）、指定した時間で非同期にまたは定期的にアラート グループ メッセージを受信するよう選択できます。送信期間は、次のいずれかにできます。

- 毎日：24 時間の時間:分形式 *hh:mm*（例：14:30）で送信する時刻を指定します。
- 毎週：*day hh:mm* という形式で曜日と時刻を指定します。ここで、*day* は曜日をスペルアウトします（例：monday）。
- 毎月：*date hh:mm* という形式で 1 ~ 31 の日と時刻を指定します。

Snapshot アラート グループは、次のオプションをサポートします。

- 間隔：定期的なメッセージが送信される間隔を 1 ~ 60 分で指定します。
- 毎時：定期的なメッセージが送信される時刻（分）を 0 ~ 59 分で指定します。

メッセージの重大度しきい値

宛先プロファイルを Diagnostic、Environment、または Syslog アラート グループに登録すると（「[アラート グループの登録の設定](#)」(P.50-34) を参照）、メッセージの重大度に基づいてアラート グループ メッセージを送信するしきい値を設定できます。宛先プロファイルに指定したしきい値より低い値のメッセージは、宛先に送信されません。

重大度しきい値は、[表 50-13](#) のキーワードと、catastrophic（レベル 9、最高レベルの緊急性）から debugging（レベル 0、最低レベルの緊急性）までの範囲を使用して設定します。重大度しきい値が設定されていない場合、デフォルトは debugging（レベル 0）です。



(注) Call Home の重大度は、システム メッセージ ログの重大度とは異なります。

表 50-13 重大度と Syslog レベルのマッピング

レベル	キーワード	Syslog レベル	説明
9	catastrophic	N/A	ネットワーク全体に壊滅的な障害が発生しています。
8	disaster	N/A	ネットワークへの重大な影響。
7	fatal	緊急 (0)	システムを使用できません。
6	critical	アラート (1)	クリティカルな状態、ただちに注意が必要。
5	major	重要 (2)	重大な状態。
4	minor	エラー (3)	軽微な状態。
3	warning	警告 (4)	警告状態です。
2	notification	通知 (5)	基本的な通知と情報メッセージ。他と関係しない、重要性の低い障害。
1	normal	情報 (6)	標準状態に戻ることを示す標準イベント。
0	debugging	デバッグ (7)	デバッグ メッセージです。

スナップショット コマンド リストの設定

スナップショット コマンド リストを設定するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home 設定サブモードを開始します。
ステップ3	<code>alert-group-config snapshot</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>alert-group-config snapshot</code>	スナップショット コンフィギュレーション モードを開始します。 no または default コマンドは、すべてのスナップショット コマンドを削除します。
ステップ4	<code>add-command command string</code> 例： Router(cfg-call-home-snapshot)# <code>add-command "show version"</code>	Snapshot アラート グループにコマンドを追加します。 no または default コマンドは、対応するコマンドを削除します。 • <i>command string</i> : IOS コマンド。最大長は 128 文字です。
ステップ5	<code>exit</code> 例： Router(cfg-call-home-snapshot)# <code>exit</code>	終了し、設定を保存します。

Call Home メッセージの IOS コマンドを実行するための AAA 認証のイネーブル化

AAA 認証をイネーブルにして Call Home メッセージの出力の収集をイネーブルにする IOS コマンドを実行するには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home 設定サブモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ3	<pre>aaa-authorization</pre> <p>例:</p> <pre>Router(cfg-call-home)# aaa-authorization</pre>	<p>AAA 認証をイネーブルにします。</p> <p>(注) デフォルトでは、AAA 認証は Call Home でディセーブルです。</p>
ステップ4	<pre>aaa-authorization [username username]</pre> <p>例:</p> <pre>Router(cfg-call-home)# aaa-authorization username user</pre>	<p>許可のためのユーザ名を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> username username : デフォルトのユーザ名は callhome です。最大長は 64 文字です。

Syslog パターン マッチングの設定

宛先プロファイルを Syslog アラート グループに登録すると（「アラート グループの登録の設定」(P.50-34) を参照）、各 syslog メッセージ内で一致するテキスト パターンを任意で指定できます。パターンを設定すると、指定されたパターンが含まれ、重大度しきい値に一致する場合にだけ Syslog アラート グループ メッセージが送信されます。パターンにスペースが入っている場合、設定時にそのパターンを引用符 (") で囲みます。宛先プロファイルごとにパターンを 5 つまで指定できます。

Call Home データ プライバシーの設定

Call Home データ プライバシー機能では、顧客のプライバシーを保護するために実行コンフィギュレーション ファイルの潜在的な機密データ (IP アドレスなど) のスクラビング処理が行われます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例: Router# <code>configure terminal</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例: Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home 設定サブモードを開始します。
ステップ3	<code>data-privacy {level {normal high} hostname}</code> 例: Router(cfg-call-home)# <code>data-privacy level high</code>	顧客のプライバシーを保護するために、実行コンフィギュレーション ファイルのデータのスクラビング処理を行います。 (注) <code>data-privacy</code> コマンドをイネーブルにすると、大量のデータのスクラビング処理を行ったときに CPU 使用率に影響を及ぼすことがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • normal (デフォルト) : すべての標準レベル コマンドのスクラビング処理を行います。 • high : 標準レベル コマンドに加えて、IP ドメイン名と IP アドレスのコマンドのスクラビング処理を行います。 • hostname : 高レベル コマンドに加えて <code>hostname</code> コマンドのスクラビング処理を行います。 (注) VSS モードでは、設定メッセージのホスト名のスクラビング処理を行うと、Cisco TAC バックエンド サーバで Smart Call Home の処理に失敗することがあります。

次に、SR 番号が指定され、XML メッセージ形式で Cisco TAC バックエンド サーバへ送信されたコマンド出力の例を示します。

```
Router# call-home send "show version; show run" http tac-service-request 123456
```

次に、Cisco TAC バックエンド サーバに HTTP プロトコルを使用して送信され、ユーザが指定した電子メールアドレスに転送されたコマンド出力の例を示します。

```
Router# call-home send "show version; show run" http destination-email-address user@company.com
```

Call Home のイネーブル化

Call Home 機能をイネーブルにするには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ1	Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	Router(config)# service call-home	Call Home 機能をイネーブルにします。

Call Home トラフィック レート制限の設定

Call Home トラフィック レート制限を設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ1	Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	Router(config)# call-home	Call Home 設定サブモードを開始します。
ステップ3	Router(cfg-call-home)# rate-limit number	(任意) 1 分間に送信するメッセージ数の上限を指定します (1 ~ 60)。デフォルトは 20 です。

次に、Call Home トラフィック レート制限を設定する例を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# call-home
Router(config-call-home)# profile test
Router(cfg-call-home-profile)# rate-limit 20
```

syslog スロットリングの設定

Call Home syslog メッセージを繰り返し送信しないように Call Home syslog メッセージのスロットリングをイネーブルにするには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure terminal 例: Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	call-home 例: Router(config)# call-home	Call Home 設定サブモードを開始します。
ステップ3	syslog-throttling 例: Router(cfg-call-home)# syslog-throttling	Call Home syslog メッセージのスロットリングをイネーブルにします。これにより、Call Home syslog メッセージは繰り返し送信されません。デフォルトでは、syslog メッセージ スロットリングはイネーブルです。

Call Home の通信のテスト

- 「Call Home テスト メッセージの手動送信」 (P.50-41)
- 「Call Home アラート グループ メッセージの手動送信」 (P.50-41)
- 「分析およびレポート要求の送信」 (P.50-42)
- 「コマンド出力の送信」 (P.50-43)

Call Home テスト メッセージの手動送信

Call Home テスト メッセージを手動で送信するには、次の作業を行います。

コマンド	目的
Router# <code>call-home test ["test-message"] profile name</code>	指定された宛先プロファイルにテストメッセージを送信します。ユーザ定義のテストメッセージテキストは任意ですが、スペースが含まれる場合は、引用符 (") で囲みます。ユーザ定義のメッセージが設定されていない場合、デフォルトメッセージが送信されます。

Call Home アラート グループ メッセージの手動送信

Call Home アラート グループ メッセージを手動で起動するには、次の作業を行います。

コマンド	目的
ステップ1 Router# <code>call-home send alert-group configuration [profile name]</code>	宛先プロファイルの 1 つ (指定されている場合) または登録されているすべての宛先プロファイルに Configuration アラート グループ メッセージを送信します。
ステップ2 Router# <code>call-home send alert-group {crash diagnostic snapshot} {module number slot/subslot slot/bay_number switch x module number} [profile name]</code>	設定された宛先プロファイル (指定されている場合) または登録されているすべての宛先プロファイルに Diagnostic アラート グループ メッセージを送信します。診断情報が送信されるモジュールまたはポートを指定する必要があります。Virtual Switching System (VSS) を使用する場合は、スイッチとモジュールを指定する必要があります。
ステップ3 Router# <code>call-home send alert-group inventory [profile name]</code>	宛先プロファイルの 1 つ (指定されている場合) または登録されているすべての宛先プロファイルに Inventory アラート グループ メッセージを送信します。

- 手動で送信できるのは、Configuration、Diagnostic、または Inventory アラート グループだけです。
- Configuration、Diagnostic、または Inventory アラート グループ メッセージを手動で起動し、宛先プロファイル名を指定すると、プロファイルのアクティブ ステータス、登録ステータス、または重大度設定に関係なくメッセージが宛先プロファイルに送信されます。

- Configuration または Inventory アラート グループ メッセージを手動で起動し、宛先プロファイル名を指定しないと、normal または指定されたアラート グループへの定期的な登録に指定されたアクティブなプロファイルすべてにメッセージが送信されます。
- Diagnostic アラート グループ メッセージを手動で起動し、宛先プロファイル名を指定しないと、コマンドによって次の動作が行われます。
 - 重大度が minor より下の診断イベントに登録されたアクティブなプロファイルの場合、モジュールまたはインターフェイスが診断イベントを遵守しているかどうかに関係なくメッセージが送信されます。
 - 重大度が minor 以上の診断イベントに登録されたアクティブなプロファイルの場合、指定されたモジュールまたはインターフェイスが、少なくとも登録された重大度の診断イベントを遵守している場合にだけメッセージが送信されます。遵守していない場合、診断メッセージは宛先プロファイルに送信されません。

分析およびレポート要求の送信

レポートおよび分析情報の要求を Cisco アウトプットインタープリタ ツールから送信するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ1	Router# call-home request output-analysis "show-command" [profile name] [ccoid user-id]	分析用として指定した show コマンドの出力を送信します。show コマンドは二重引用符 (" ") で囲みます。
ステップ2	Router# call-home request {config-sanity bugs-list command-reference product-advisory} [profile name] [ccoid user-id]	show running-config all 、 show version 、 show module (スタンドアロン) または show module switch all (VS システム) コマンドなどのあらかじめ定められているコマンド群の出力を分析用に送信します。要求するレポートのタイプを指定します。

- **profile name** を指定すると、要求はプロファイルに送信されます。プロファイルを指定しなければ、要求は Cisco TAC プロファイルに送信されます。Call Home 要求の受信者プロファイルを用意する必要はありません。要求メッセージを Cisco TAC に転送し、Smart Call Home サービスから返信を受信できるように、転送ゲートウェイが設定された電子メールアドレスをプロファイルに指定します。
- **ccoid user-id** は、Smart Call Home ユーザの登録 ID です。**user-id** を指定すると、応答は登録ユーザの電子メールアドレスに送信されます。**user-id** を指定しなければ、応答はデバイスの連絡先電子メールアドレスに送信されます。
- 要求されるレポートのタイプを示すキーワードに応じて、次の情報が返されます。
 - **config-sanity** : 現在の実行コンフィギュレーションに関連するベスト プラクティスの情報。
 - **bugs-list** : 実行中のバージョンおよび現在適用されている機能の既知のバグ。
 - **command-reference** : 実行コンフィギュレーションに含まれるすべてのコマンドへの参照リンク。
 - **product-advisory** : ネットワークのデバイスに影響する可能性のある Product Security Incident Response Team (PSIRT) 通知、End of Life (EOL) または End of Sales (EOS) 通知、あるいは Field Notice (FN)。

次に、ユーザが指定した show コマンドの分析を要求する例を示します。

```
Router# call-home request output-analysis "show diagnostic result module all" profile TG
```

コマンド出力の送信

1 つまたは複数の CLI コマンドを実行し、HTTP または電子メールでコマンド出力を送信するには、次の作業を行います。

コマンド	目的
<pre>Router# call-home send {cli command cli list} [email email msg-format {long-text xml} http {destination-email-address email}] [tac-service-request SR#]</pre>	<p>CLI または CLI リストを実行し、電子メールまたは HTTP 経由で出力を送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • {cli command cli command list} : IOS コマンドまたは IOS コマンドのリスト (「;」で区切ります) を指定します。すべてのモジュールに対するコマンドを含む、あらゆる run コマンドを指定できます。このコマンドは引用符 (") で囲む必要があります。 • email または http キーワードを指定しないと、出力は指定されたサービス要求番号でロング テキスト形式で Cisco TAC (attach@cisco.com) に送信されます。 • email email msg-format {long-text xml} : email キーワードおよび電子メール アドレスを指定すると、コマンド出力がそのアドレスに送信されます。 • http {destination-email-address email} : http キーワードを指定すると、Smart Call Home バックエンドサーバ (TAC プロファイルで指定された URL) にコメント出力が XML 形式で送信されます。バックエンドサーバから電子メール アドレスにメッセージを転送するには、destination-email-address email を指定します。電子メール アドレス、サービス要求番号、またはその両方を指定する必要があります。 • tac-service-request SR# : サービス要求番号を指定します。電子メール アドレスを指定しない場合、または Cisco TAC 電子メール アドレスを指定した場合、サービス要求番号が必要です。

次に、コマンドの出力をユーザ指定の電子メール アドレスに送信する例を示します。

```
Router# call-home send "show diag" email support@example.com
```

次に、SR 番号が指定され、ロング テキスト形式で attach@cisco.com に送信されるコマンド出力の例を示します。

```
Router# call-home send "show version; show run" tac-service-request 123456
```

次に、XML メッセージ形式で callhome@cisco.com に送信されるコマンド出力の例を示します。

```
Router# call-home send "show version; show run" email callhome@cisco.com msg-format xml
```

次に、SR 番号が指定され、XML メッセージ形式で Cisco TAC バックエンド サーバへ送信されたコマンド出力の例を示します。

```
Router# call-home send "show version; show run" http tac-service-request 123456
```

次に、Cisco TAC バックエンド サーバに HTTP プロトコルを使用して送信され、ユーザが指定した電子メール アドレスに転送されたコマンド出力の例を示します。

```
Router# call-home send "show version; show run" http destination-email-address
user@company.com
```

Smart Call Home サービスの設定

- 「Smart Call Home の概要」 (P.50-44)
- 「Smart Call Home サービスの前提条件」 (P.50-44)
- 「単一コマンドによる Smart Call Home の設定」 (P.50-45)
- 「Smart Call Home サービスのイネーブル化」 (P.50-46)
- 「Smart Call Home の登録の開始」 (P.50-47)



(注)

単一コマンドによる Smart Call Home の設定は、Smart Call Home サービスのイネーブル化と Smart Call Home の登録の開始の代わりです。

Smart Call Home の概要

Cisco Smart Call Home サービスの適用と設定情報については、次の URL にある『*Smart Call Home User Guide*』の「Quick Start for Smart Call Home」を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/lan/smart_call_home/SCH31_Ch1.html#Quick_Start_for_Smart_Call_Home

ユーザガイドには、デバイスから直接、または転送ゲートウェイ (TG) 集約ポイントを介して Smart Call Home メッセージを送信するための設定例が記載されています。複数のデバイスをサポートする必要がある場合や、セキュリティ要件によってデバイスがインターネットに直接接続されないことが必要とされる場合は、TG 集約ポイントを使用できます。

Smart Call Home サービスは転送方法として HTTPS を使用するため、『*Smart Call Home User Guide*』で説明されているように CA をトラストポイントとして設定する必要もあります。



ヒント

Smart Call Home の Web サイトから基本的な設定スクリプトをダウンロードして、Smart Call Home サービスおよびシスコ TAC とともに使用するよう Call Home 機能を設定するために利用できます。このスクリプトは、Smart Call Home サービスとセキュアな通信を行うために、トラストポイント CA を設定する際にも有用です。このスクリプトは、そのままの形で次の URL にある「Smart Call Home Resources」の下のリンクからダウンロードできます。

https://supportforums.cisco.com/community/netpro/solutions/smart_services/smartcallhome

Smart Call Home サービスの前提条件

- 設定するデバイスが有効なサービス契約の対象となっていることを確認します。
- Cisco HTTPS サーバと IP 接続できることを確認します。
- 最新のシスコ サーバセキュリティ証明書を取得します。

単一コマンドによる Smart Call Home の設定



(注) こと手順は、[Smart Call Home サービスのイネーブル化](#)と [Smart Call Home の登録の開始](#)の代わりです。

1 つのコマンドを使用してすべての Call Home の基本設定をイネーブルにするには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<pre>configure terminal</pre> <p>例 :</p> <pre>Router# configure terminal</pre>	<p>コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ2	<pre>call-home reporting {anonymous contact-email-addr email-address} [http-proxy {ipv4-address ipv6-address name} port port-number]</pre> <p>例 :</p> <pre>Router(config)# call-home reporting contact-email-addr email@company.com</pre>	<p>1 つのコマンドを使用してすべての Call Home の基本設定をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • anonymous : Call Home TAC プロファイルがクラッシュ、インベントリ、およびテスト メッセージだけを送信し、匿名でメッセージを送信できるようにします。 • contact-email-addr : Smart Call Home サービスのフル レポート機能をイネーブルにし、フル インベントリ メッセージを Call Home TAC プロファイルから Smart Call Home サーバに送信してフル登録プロセスを開始します。 • http-proxy {ipv4-address ipv6-address name} : IPv4 または IPv6 アドレスまたはサーバ名。最大長は 64 文字です。 • port port-number : ポート番号。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。 <p>(注) HTTP プロキシ オプションでは、バッファリングするための独自のプロキシ サーバおよびデバイスからのセキュア接続を利用できます。</p> <p>(注) call-home reporting コマンドを使用して匿名またはフル登録モードで Call Home を正常にイネーブルにした後、インベントリ メッセージが送信されます。Call Home がフル登録モードでイネーブルになっている場合、フル登録モードのフル インベントリ メッセージが送信されます。Call Home が匿名モードでイネーブルになっている場合、匿名のインベントリ メッセージが送信されます。これらのメッセージの送信内容の詳細については、「アラート グループの起動イベントとコマンド」(P.50-5) を参照してください。</p>

Smart Call Home サービスのイネーブル化



(注) この手順および Smart Call Home の登録の開始は、単一コマンドによる Smart Call Home の設定の代わりです。

CiscoTAC-1 プロファイルは、電子メールを使用して Smart Call Home サービスのバック エンドサーバと通信するように Call Home 機能で事前定義されています。Cisco HTTPS バック エンドサーバへの URL も定義されています。このプロファイルは、デフォルトで非アクティブです。

両方の転送方法をサポートするように Call Home で設定できる他のプロファイルとは異なり、CiscoTAC-1 プロファイルは一度に 1 つの転送方法のみを使用できます。Cisco Smart Call Home HTTPS サーバでこのプロファイルを使用するには、転送方法を電子メールから HTTP に変更し、このプロファイルをイネーブルにする必要があります。また、連絡先の電子メールアドレスを最小限指定し、Call Home 機能をイネーブルにする必要があります。

Smart Call Home サービスをイネーブルにするには、次の作業を行います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	Router(config-call-home)# profile CiscoTAC-1	CiscoTAC-1 宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	Router(cfg-call-home-profile)# destination transport-method http	(HTTPS の場合は必須) http のメッセージ転送方法を設定します。
ステップ 5	Router(cfg-call-home-profile)# active	宛先プロファイルをイネーブルにします。
ステップ 6	Router(cfg-call-home-profile)# exit	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、Call Home コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 7	Router(cfg-call-home)# contact-email-addr customer_email_address	顧客の電子メール アドレスを割り当てます。スペースを入れず電子メール アドレス形式で 200 文字まで入力します。
ステップ 8	Router(cfg-call-home)# exit	Call Home コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 9	Router(config)# service call-home	Call Home 機能をイネーブルにします。
ステップ 10	Router(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	Router# copy running-config startup-config	設定を保存します。

次に、Smart Call Home サービスをイネーブルにする例を示します。

```
Router(cfg-call-home-profile)# destination transport-method http
Router(cfg-call-home-profile)# active
Router(cfg-call-home-profile)# exit
Router(cfg-call-home)# contact-email-addr username@example.com
Router(cfg-call-home)# exit
Router(config)# service call-home
Router(config)# exit
Router# copy running-config startup-config
```

Smart Call Home の登録の開始



(注)

この手順および Smart Call Home サービスのイネーブル化は、単一コマンドによる Smart Call Home の設定の代わりです。

Smart Call Home の登録プロセスを開始するには、次の作業を行います。

コマンドまたはアクション	目的
Router# <code>call-home send alert-group inventory profile CiscoTAC-1</code>	Inventory アラート グループ メッセージを CiscoTAC-1 宛先プロファイルに手動で送信します。

Smart Call Home サービスが登録されると、シスコから電子メールを受信します。電子メールの指示に従います。この指示には次の手順が含まれています。

- デバイス登録を完了するには、次の URL にある Smart Call Home Web アプリケーションを起動します。
<https://tools.cisco.com/sch/>
- 法的な契約書を受け入れます。
- 登録が保留中であった Call Home デバイスのデバイス登録を確認します。

Smart Call Home Web アプリケーションの使用の詳細については、『[Smart Call Home User Guide](#)』を参照してください。このユーザ ガイドには、デバイスから直接、または転送ゲートウェイ (TG) 集約ポイントを介して Smart Call Home メッセージを送信するための設定例も含まれています。複数のデバイスをサポートする必要がある場合や、セキュリティ要件によってデバイスがインターネットに直接接続されないことが必須である場合は、TG 集約ポイントを使用できます。

Call Home 設定の確認

設定された Call Home 情報を表示するには、次の作業を行います。

コマンド	目的
Router# <code>show call-home</code>	Call Home 設定の概要を表示します。
Router# <code>show call-home detail</code>	Call Home 設定の詳細を表示します。
Router# <code>show call-home alert-group</code>	使用可能なアラート グループとそれらのステータスを表示します。
Router# <code>show call-home mail-server status</code>	設定済みの電子メール サーバの可用性を確認して表示します。
Router# <code>show call-home profile {all name}</code>	指定された宛先プロファイルの設定を表示します。 all キーワードを使用してすべての宛先プロファイルの設定を表示します。
Router# <code>show call-home statistics [detail profile profile_name]</code>	Call Home イベントの統計情報を表示します。

例 50-1 ~ 50-9 は、`show call-home` コマンドの各種オプションを使用した Release 15.1(1)SY の結果の例を示しています。

例 50-1 設定済みの Call Home 情報

```

Router# show call-home
Current call home settings:
  call home feature : enable
  call home message's from address: switch@example.com
  call home message's reply-to address: support@example.com

  vrf for call-home messages: Not yet set up

  contact person's email address: technical@example.com

  contact person's phone number: +1-408-555-1234
  street address: 1234 Any Street, Any city, Any state, 12345
  customer ID: ExampleCorp
  contract ID: X123456789
  site ID: SantaClara

  source ip address: Not yet set up
  source interface: GigabitEthernet7/2
  Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1
  Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2
  http proxy: 192.168.1.2:80

  aaa-authorization: disable
  aaa-authorization username: callhome (default)
  data-privacy: normal
  syslog throttling: enable

  Rate-limit: 20 message(s) per minute

  Snapshot command[0]: show version
  Snapshot command[1]: show module

Available alert groups:
  Keyword                State  Description
  -----
  configuration           Enable configuration info
  crash                   Enable crash and traceback info
  diagnostic              Enable diagnostic info
  environment             Enable environmental info
  inventory               Enable inventory info
  snapshot                Enable snapshot info
  syslog                  Enable syslog info

Profiles:
  Profile Name: campus-noc
  Profile Name: CiscoTAC-1

Router#

```


例 50-2 設定済みの Call Home 情報の詳細

```

Router# show call-home detail
Current call home settings:
  call home feature : enable
  call home message's from address: switch@example.com
  call home message's reply-to address: support@example.com

vrf for call-home messages: Not yet set up

contact person's email address: technical@example.com

contact person's phone number: +1-408-555-1234
street address: 1234 Any Street, Any city, Any state, 12345
customer ID: ExampleCorp
contract ID: X123456789
site ID: SantaClara

source ip address: Not yet set up
source interface: GigabitEthernet7/2
Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1
Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2
http proxy: 192.168.1.2:80

aaa-authorization: disable
aaa-authorization username: callhome (default)
data-privacy: normal
syslog throttling: enable

Rate-limit: 20 message(s) per minute

Snapshot command[0]: show version
Snapshot command[1]: show module

Available alert groups:
  Keyword          State   Description
  -----
  configuration    Enable  configuration info
  crash            Enable  crash and traceback info
  diagnostic       Enable  diagnostic info
  environment      Enable  environmental info
  inventory        Enable  inventory info
  snapshot         Enable  snapshot info
  syslog           Enable  syslog info

Profiles:

Profile Name: campus-noc
  Profile status: ACTIVE
  Profile mode: Full Reporting
  Preferred Message Format: long-text
  Message Size Limit: 3145728 Bytes
  Transport Method: email
  Email address(es): noc@example.com
  HTTP address(es): Not yet set up

  Alert-group      Severity
  -----
  inventory        normal

  Syslog-Pattern   Severity
  -----
  N/A              N/A

Profile Name: CiscoTAC-1
  Profile status: ACTIVE
  Profile mode: Full Reporting
  Preferred Message Format: xml
  Message Size Limit: 3145728 Bytes

```

```

Transport Method: email
Email address(es): callhome@cisco.com
HTTP address(es): https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService

```

Periodic configuration info message is scheduled every 12 day of the month at 17:06

Periodic inventory info message is scheduled every 12 day of the month at 16:51

```

Alert-group          Severity
-----
crash                normal
diagnostic           minor
environment          minor
inventory            normal

Syslog-Pattern      Severity
-----
.*                  major

```

Router#

例 50-3 使用可能な Call Home アラート グループ

```
Router# show call-home alert-group
```

Available alert groups:

```

Keyword              State  Description
-----
configuration        Enable configuration info
crash                 Enable crash and traceback info
diagnostic            Enable diagnostic info
environment           Enable environmental info
inventory             Enable inventory info
snapshot              Enable snapshot info
syslog                Enable syslog info

```

Router#

例 50-4 電子メール サーバのステータス情報

```
Router# show call-home mail-server status
```

Please wait. Checking for mail server status ...

Translating "smtp.example.com"

```

Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1 [Not Available]
Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2 [Not Available]

```

Router#

例 50-5 すべての宛先プロファイルの情報 (定義済みおよびユーザ定義)

```
Router# show call-home profile all
```

```

Profile Name: campus-noc
Profile status: ACTIVE
Profile mode: Full Reporting
Preferred Message Format: long-text
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): noc@example.com
HTTP address(es): Not yet set up

```

```

Alert-group          Severity
-----
inventory            normal

```

```

Syslog-Pattern          Severity
-----
N/A                     N/A

Profile Name: CiscoTAC-1
Profile status: ACTIVE
Profile mode: Full Reporting
Preferred Message Format: xml
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): callhome@cisco.com
HTTP address(es): https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService

Periodic configuration info message is scheduled every 12 day of the month at 17:06

Periodic inventory info message is scheduled every 12 day of the month at 16:51

Alert-group            Severity
-----
crash                  normal
diagnostic             minor
environment            minor
inventory              normal

Syslog-Pattern          Severity
-----
.*                     major

Router#

```

例 50-6 ユーザ定義宛先プロファイルの情報

```
Router# show call-home profile campus-noc
```

```

Profile Name: campus-noc
Profile status: ACTIVE
Profile mode: Full Reporting
Preferred Message Format: long-text
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): noc@example.com
HTTP address(es): Not yet set up

Alert-group            Severity
-----
inventory              normal

Syslog-Pattern          Severity
-----
N/A                     N/A

Router#

```

例 50-7 Call Home の統計情報

```
Router# show call-home statistics
```

Message Types	Total	Email	HTTP
Total Success	1	1	0
Config	0	0	0
Crash	0	0	0
Diagnostic	0	0	0
Environment	0	0	0
Inventory	0	0	0
Snapshot	0	0	0

```

SysLog      0          0          0
Test       0          0          0
Request    0          0          0
Send-CLI   1          1          0

Total In-Queue 0          0          0
Config     0          0          0
Crash     0          0          0
Diagnostic 0          0          0
Environment 0        0          0
Inventory 0          0          0
Snapshot  0          0          0
SysLog    0          0          0
Test      0          0          0
Request   0          0          0
Send-CLI  0          0          0

Total Failed 0          0          0
Config     0          0          0
Crash     0          0          0
Diagnostic 0          0          0
Environment 0        0          0
Inventory 0          0          0
Snapshot  0          0          0
SysLog    0          0          0
Test      0          0          0
Request   0          0          0
Send-CLI  0          0          0

Total Ratelimit
-dropped  0          0          0
Config     0          0          0
Crash     0          0          0
Diagnostic 0          0          0
Environment 0        0          0
Inventory 0          0          0
Snapshot  0          0          0
SysLog    0          0          0
Test      0          0          0
Request   0          0          0
Send-CLI  0          0          0

```

Last call-home message sent time: 2012-10-22 21:35:48 GMT+08:00

例 50-8 Call Home の統計情報の詳細

```

Router# show call-home statistics detail
Type/Subtype      Total      Email      HTTP
-----
Total Success     1          1          0
Config/delta      0          0          0
Config/full       0          0          0
Crash/module crash 0          0          0
Crash/system crash 0          0          0
Crash/traceback   0          0          0
Diagnostic         0          0          0
Environment        0          0          0
Inventory/delta    0          0          0
Inventory/full     0          0          0
Snapshot          0          0          0
SysLog            0          0          0
Test              0          0          0
Request           0          0          0

```

```

Send-CLI          1          1          0
Total In-Queue    0          0          0
Config/delta      0          0          0
Config/full       0          0          0
Crash/module crash 0          0          0
Crash/system crash 0          0          0
Crash/traceback   0          0          0
Diagnostic        0          0          0
Environment       0          0          0
Inventory/delta   0          0          0
Inventory/full    0          0          0
Snapshot         0          0          0
SysLog           0          0          0
Test             0          0          0
Request          0          0          0
Send-CLI        0          0          0

Total Failed      0          0          0
Config/delta      0          0          0
Config/full       0          0          0
Crash/module crash 0          0          0
Crash/system crash 0          0          0
Crash/traceback   0          0          0
Diagnostic        0          0          0
Environment       0          0          0
Inventory/delta   0          0          0
Inventory/full    0          0          0
Snapshot         0          0          0
SysLog           0          0          0
Test             0          0          0
Request          0          0          0
Send-CLI        0          0          0

Total Ratelimit
-dropped         0          0          0
Config/delta      0          0          0
Config/full       0          0          0
Crash/module crash 0          0          0
Crash/system crash 0          0          0
Crash/traceback   0          0          0
Diagnostic        0          0          0
Environment       0          0          0
Inventory/delta   0          0          0
Inventory/full    0          0          0
Snapshot         0          0          0
SysLog           0          0          0
Test             0          0          0
Request          0          0          0
Send-CLI        0          0          0

```

Last call-home message sent time: 2012-10-22 21:35:48 GMT+08:00

Router#

例 50-9 Call Home 統計情報プロファイル campus-noc

Router#show call-home statistics profile campus-noc

Type/Subtype	Subscribe	Success	Inqueue	Failed	Rate-limit Drop	Last msg sent (GMT+08:00)
Config/delta	normal	0	0	0	0	n/a
Config/full	bootup	0	0	0	0	n/a

Config/full	ondemand	0	0	0	0	n/a
Config/full	periodic	0	0	0	0	n/a
Crash/module crash	normal	0	0	0	0	n/a
Crash/system crash	normal	0	0	0	0	n/a
Crash/system crash	ondemand	0	0	0	0	n/a
Crash/traceback	normal	0	0	0	0	n/a
Diagnostic	normal	0	0	0	0	n/a
Diagnostic	ondemand	0	0	0	0	n/a
Environment	normal	0	0	0	0	n/a
Inventory/delta	normal	0	0	0	0	n/a
Inventory/full	bootup	0	0	0	0	n/a
Inventory/full	ondemand	0	0	0	0	n/a
Inventory/full	periodic	0	0	0	0	n/a
Snapshot	normal	0	0	0	0	n/a
Snapshot	ondemand	0	0	0	0	n/a
SysLog	normal	0	0	0	0	n/a
Test	normal	0	0	0	0	n/a
Request	normal	0	0	0	0	n/a

Router#



ヒント Cisco Catalyst 6500 シリーズ スイッチの詳細（設定例およびトラブルシューティング情報を含む）については、次のページに示されるドキュメントを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/switches/ps708/tsd_products_support_series_home.html

[技術マニュアルのアイデア フォーラムに参加する](#)